

2019 年度事業活動報告

～事業活動の評価と今後の課題について～

■ 2019 年度 事業活動報告	P2～25
■ 2019 年度 運動を担った皆さん	P26～28
■ 2019 年度 募金報告	P29～31
■ 2019 年度 新聞掲載記事	p32～36
■ 2019 年度 アクションプラン評価	P37～48

盛岡 YMCA

2019 年度 事業活動報告

2019 年度盛岡 YMCA は、3つの事業活動方針とそれらに基づく 10 の計画を定め「※1 ポジティブネットのある社会の実現」に取り組んで来ました。以下、方針・事業計画に対する取組みの評価を報告します。

※1 「ポジティブネット」とは、2017 年から全国の YMCA が同時に掲げたビジョン。互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。日本の YMCA は、地球規模のネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望のあるより豊かな社会の創造を目指すことを宣言しました。

方針 I . YMCA 経験者を増やす

「盛岡 YMCA の使命を日々の働きの中で具体的に実践していくこと」を通し、YMCA 理解者、経験者を増やす。このことにより YMCA の伝えたい価値をより多くの市民に伝える。

盛岡 YMCA の使命では、「イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界を実現する」と謳われています。ここでいう「生き方」とは、盛岡 YMCA の基本聖句「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマ信徒への手紙 12 章 15 節）にあるように、他者の悲しみや喜びを自分のことのように受止め、利他的に生きていくことです。こうした生き方は、宗教、思想、信条を超えた普遍的な価値と言えるでしょう。

盛岡 YMCA は、具体的に実施する事業や活動を通してこの普遍的な価値をより多くの市民に伝えることを最大の目的としており、このことによって「ポジティブネットのある社会」（公正で平和な社会）実現されることを願っています。そのためには、まず「YMCA を知ってもらうこと」「YMCA のおこなう事業や活動に参加してもらうこと」から始めなければなりません。方針 I 「YMCA 経験者を増やす」にはそうした意味が込められていました。

計画 1 . ボランティアに参画する機会を増やす

YMCA 運動を推進する維持会員を増やす。また、小学校高学年、中高生、ユース、シニアに至る全ての世代がボランティア活動への参画する機会を増やす。

1) 大学生ボランティアリーダーの募集を計画的に行うとともに、盛岡 YMCA に登録したボランティアリーダーがその後、充実した 4 年間を過ごせるように支援する体制を作る。

① 新入生リーダーの勧誘について

新入生ボランティアリーダーの勧誘については、前年度から入念に準備を重ね、以下の活動を行い、123 名の新入生がボランティア登録をすることができました。

新入生歓迎会	4月6日(土) 4月14日(日)	例年は1回のところ、今年度は2回開催。4月6日は、岩手県立大学、盛岡大学を対象に75名の新入生が参加、14日は岩手大学35名が参加しました。もりおかワイズメンズクラブの皆さんが協力して下さいました。
新入生歓迎 キャンプ	4月28日(日)～ 29日(祝)	国立岩手山青少年交流の家で1泊2日に日程で開催。新入生63名、在校生リーダー23名、スタッフ5名、総勢91名のキャンプでした。



② リーダートレーニングについて

盛岡 YMCA にボランティア登録した学生リーダーが安心して、自信を持って YMCA のプログラムに参加することができるように以下のリーダートレーニングを開催し、延べ 812 名の学生が受講しました。講師は、盛岡 YMCA に限らず、東日本の YMCA や地域の諸団体にも協力を呼びかけ開催することができました。

月日	講師	講師所属	出席	内容・開催場所
4月6日	盛岡 YMCA リーダー会		94	新入生歓迎会（オリエンテーション、食事会） 於：日本キリスト教団内丸教会
4月15日	盛岡 YMCA リーダー会		57	同上
4月28 - 29日	盛岡 YMCA リーダー会		91	テント設営、ゲーム於：岩手山青少年交流の家
6月5日	濱塚有史	盛岡 YMCA	52	YMCA 理解 於：日本キリスト教団内丸教会
6月9日	武田悠 向平悟	盛岡 YMCA	57	プログラム理解 於：仁王地区活動センター
6月12日	廣田光司	千葉 YMCA 総主事	53	安全理解 於：日本キリスト教団内丸教会
6月22日	東野真理子	栄養士	46	食中毒理解 於：日本キリスト教団内丸教会
6月23日	盛岡中央消防署	盛岡中央消防署	56	救急法 於：日本キリスト教団内丸教会
6月29日	名古屋恒彦	植草学園大学教授 盛岡 YMCA 常議員	50	発達障がい理解 於：日本キリスト教団内丸教会
6月30日	小川嘉文 浅沼慧	盛岡 YMCA	47	人間関係トレーニング於：向中野センター
11月27日	向平悟	盛岡 YMCA	32	リーダー理解 於：日本キリスト教団内丸教会
11月30日	日本赤十字社	日本赤十字社	30	冬の救急法 於：日本キリスト教団内丸教会
12月5日	保坂弘志	東京 YMCA 広報室・IT 室室長	37	コンプライアンスについて 於：日本キリスト教団内丸教会
12月11日	向平悟	盛岡 YMCA	38	安全理解・スキー技術 於：内丸教会
12月21日～ 22日	向平悟 武田悠 浅沼慧 小林明彦	盛岡 YMCA 東京 YMCA 職員 OB	34	1泊リーダートレーニング 於：安比高原スキー場
2月13日	田口努	横浜 YMCA 総主事	26	キャラクターディベロップメント運動

				於：日本キリスト教団内丸教会
2月27日	中原真澄	内丸教会牧師 盛岡 YMCA 常議員	12	キリスト教理解 於：日本キリスト教団内丸教会



▲ 6月 プログラム理解



▲ 12月 1泊スキーリートレ

③ リーダーの研修派遣について

盛岡 YMCA が開催するリーダートレーニングの他にも全国の YMCA が主催する研修会や他団体のセミナー等にも積極的に派遣をしました。これらの研修への参加費、交通費等はもろおかワイズメンズクラブからの寄付、写真販売収入（盛岡 YMCA のプログラムにスナップ写真販売の益金をリーダー育成に充てることとし、この趣旨に賛同したプログラム参加者の保護者から購入いただいています）に依るものです。



▲ 全国まちづくり若者サミット

日程	プログラム名	場所	人数
8/11～14	リーダー派遣 ぐんま YMCA ぐるりんキャンプ	ぐんま YMCA ぐんま YMCA 赤城山キャンプ場	3名
8/22～24	リーダー派遣 ぐんま YMCA 3DAYS キャンプ	ぐんま YMCA ぐんま YMCA 赤城山キャンプ場	2名
8/31～9/2	第4回ユースアッセンブリー	オリンピック記念青少年総合センター	3名
9/2～6	第20回アジア・太平洋 YMCA 大会	国際青少年センター YMCA 東山荘	3名
9/4～5	福島スタディーツアー ※とちぎ YMCA と共催	福島県南相馬市	14名

9/6～8	第 32 回ユースボランティアフォーラム	東京 YMCA 山中湖センター	2 名
12/26～29	リーダー派遣 埼玉 YMCA 丸沼パウダースキーキャンプ	丸沼高原スキー場	2 名
2/1～2	全国まちづくり若者サミット	日本青年会館	2 名
2/2～3	ワイズメンズクラブ北東部リーダーズアクト	栃木県体育館	7 名

※ 第 50 回全国 YMCA リーダー研修会は第 3 回盛岡 YMCA インターナショナルチャリティーランと日程が重なったため派遣することができませんでした。

※ 第 24 回学生 YMCA インド・スタディーキャンプには学生 1 名を派遣する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、キャンプが中止となりました。

▶ 今後の課題

リーダートレーニングは、主にキャンプの開催に向けて、キャンプに必要な知識とスキルの習得を主な目的に開催されていますが、これとは別に「平和」「環境」「国際」「地域」など次代を担っていく青年にとって必要なトレーニングをリーダーの負担にならない範囲で吟味し、計画的に開催していくことが課題です。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が進む中、YMCA の行う活動が制限されています。このような状況のもと、学生リーダーのモチベーションを維持し、YMCA 運動連なってもらえように、SNS を駆使するなど新たな視点での具体的なアクションが必要です。

2) 中学、高校生と大学生ボランティアが交流できる場を提供する。



通常の野外活動等にジュニアボランティアとして高校生の参加も検討しましたが、大学生のボランティアの増加にともない、参加者の数とボランティアの数のバランスを考慮し、今年度は一般に向けての募集を見送りました。一方でユース委員会の取り組みや、日常的な YMCA の活動に少しづつですが、YMCA のプログラムの OB、OG や地域の高校生が顔を出してくれるようになってきました。

★写真（左上）：ぷらいむ・たいむ前潟校のお泊まり会には学童 OB・OG の中学生が参加。

★写真（右上）：ぷらいむ・たいむ本町校に盛岡一高の生徒が訪問して「平和」についてのワークショップを開催。

★写真（左下）：ぷらいむ・たいむ本町校の OB、OG が訪問。こどもたちと遊んでくれた後は、ピンクシャツデーのアピール。

★写真（右下）：向中野センターのバザーには、水泳教室の OG が手伝いに来てくれました。

また、スーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されている盛岡一高の生徒とのコラボ企画で、3 月開催予定の「ちきゅうと、あそぼう」の活動を高校生が内容を企画し、盛岡 YMCA と大学生リーダーが実施をサポートする体制で 2 泊 3 日の大船渡での開催に向けて準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中止することとなりました。企画する高校生も月例の野外活動や、チャリティーラン等に

研修も含めてボランティアとして参加してくれていたもので、とても残念でした。この企画は再度、次年度3月の開催に向けて、準備を進めていきます。

▶ 今後の課題

中学生、高校生の年代は、全国のYMCAにおいてエアポケットで、幼児、小学生、専門学校、大学生に比べて圧倒的に参加者が少ないのが現状です。これは盛岡YMCAも例外ではありません。思春期のただ中にいる少年、少女に対してYMCAが居場所を提供し、その健全な成長に寄与することはYMCAにとってとても重要なことです。そのためには ①組織的、計画的な中高生ボランティア育成への取組み。 ② 今、YMCAにプログラムに参加している小学生の子どもたちへの働きかけ この2つを具体的なアクションプランを設けて、取り組んでいく必要があります。

3) YMCAのプログラムに参加する高学年の小学生がリーダーシップを発揮できるような環境を整え支援する。

ぷらいむ・たいむ盛南校における5年生を中心とした、大掃除プログラムや、水泳教室、体操教室、サッカースクールの参加者が国際協力募金への参加などの成果が現れてきています。



▶ 今後の課題

日常的に関わる機会の多い、放課後児童クラブにおいて高学年の子どもたちのリーダーシップトレーニングの開発へ向けて伴走プログラムと連動した形での取組みを研究していきます。

4) 維持会員増強運動を実施する。

年2回の募集を行いました。新たな会員増強に繋がっていないのが現状です。

年度	2017年度	2018年度	2019年度
会員数	88名	101名	101
維持会費収入	622,000	655,000	600,000

▶ 今後の課題

年2回実施しているプログラム会員の皆さんへのお手紙による働きかけもキャンプの案内、国際協力募金、チャリティラン等数多くの案内、協力を呼びかける中で、印象が弱いのが事実です。①維持会員とは何なのか ②その特典は何か？（あるのかないのか）など、維持会員についてももう一度分かりやすいパンフレットを作成し、SNSの活用も含めて具体的なアクションプランを作成するとともに、一人ひとりに直接働きかける行動を起こすことも今後の課題といえます。

計画 2. プログラムに参加する人間を増やす

盛岡 YMCA が行うプログラムを充実させ、参加した人々の満足度をあげる。このことにより、良い評判を作り、YMCA のプログラムに参加する人を増やす。

盛岡 YMCA が実施するプログラムはそのどれもが、盛岡 YMCA の使命を実現するために企画、実施されるものです。そのプログラムに参加した市民は提供されたサービスに満足すると共に YMCA の運動に共感し YMCA 運動の担い手として育っていくことが期待されます。盛岡 YMCA は単に組織を維持させるために事業を行うのではなく、ポジティブネットのある社会の実現のための会員運動体としての YMCA を目指さなければなりません。そのためには、① 盛岡 YMCA の提供するサービスの充実を図ること。②より効果的に YMCA の活動を市民に伝えること、この2つが必要になってきます。

1) 広報の方針を定め、計画を立案し、タイムリーに分かりやすく効果的な広報展開を行う。

- ① 新年度募集に関しては広報委員会を組織し、昨年度末から準備を開始し、例年より早い広報展開をはかりました。
- ② 新年度募集、サマーキャンプ、スキーキャンプといった大規模な募集に関してはデザイナーに製作を依頼しより分かりやすく見やすいものにしました。
- ③ 月例野外活動に関しては、その都度チラシを作成し、市内の小学校において配布してもらいました。
- ④ 申し込み方法を記したそれぞれの要項も読む人にとってできるだけ分かりやすく親切な内容に変更しました。
- ⑤ スーパー等にポスターの掲示のお願い、スポーツショップでの置きチラシ、学校配布ができない学区の放課後児童クラブでのチラシ配布など新たな試みも行いました。

▶ 今後の課題

広報に関しては今段階でできることは、概ね実施し、積極的な展開を図ることができたと判断していますが、募集に関しては、大きな成果をあげることは出来ませんでした。今後は、サービスの質の向上 受付対応（現場担当者と事務流れの整理）、現場担当者の対応等、総合的に内容を向上させ、良い口コミを形成していくことを目指します。また、市民が実際に求めているプログラムは何なのか、引き続き調査、研究を継続していく必要があります。

2) Web 受付を導入する。

ネット環境的には、年末には Web 受付を導入できる体制を整えていましたが、①キャンセル待ちが出るような募集状況ではない ②盛岡の地域性 ③キャンプなどの主な参加者は現会員の割合が大きく、現場担当者に直接申し込む機会が多いなど、首都圏とは大部異なる盛岡の地域性も踏まえて、今年度の導入を見送ることにしました。

▶ 今後の課題

ネットで申し込む人、直接担当者に申し込む人、電話で確認したい人など、YMCA 側の対応のマニュアルを作成し、受付ミーティングをそれぞれの募集前に行うなど、丁寧な準備をしていきます。

3) ぶらいむ・たいむ（放課後児童クラブ）在籍者のサッカー、水泳、キャンプ参加率を向上させる。

盛岡 YMCA が開校しているぶらいむ・たいむ 4 校では、それぞれの担当者が工夫をこらしてた勧誘を行うことができました。

▶ 今後の課題

それぞれの取組みの振り返りを行い、ぶらいむ・たいむ全体で一貫したやり方でのアピールの方法を検討します。お迎えの際にアピールする時間は限られているため、今後は、伴走プログラムを充実させ、日常的な保護者の方とのコミュニケーションの充実を図り、信頼関係をさらに高めた上でプログラムの参加をアピールしていきます。

4) PDCA サイクルを有効に活用し、盛岡 YMCA が行うプログラムの内容を向上させる。

昨年度から PDCA サイクルのマニュアルを作成して、それぞれの準備の際に活用するようにしていますが、全ての事業、プロジェクトで実施されたわけではありませんでした。また、担当する職員の中でも PDCA サイクルを活用して仕事をしている人と、そうでない人がいるなど、取組みがまちまちでした。

▶ 今後の課題

以下のことが検討されます。

- ① PDCA サイクルのマニュアルをもっと分かりやすく、シンプルなものにする。
- ② それぞれの事業、プロジェクトにおいて作成されたアクションプランと PDCA サイクルの運用が連動するようにする。
- ③ PDCA サイクルの活用には、ある程度の熟練が必要で全ての業務に導入すると、事務作業が膨れ上がり、手段が目的化することが懸念される。年度初めにそれぞれの担当者はどのアクションプランに PDCA サイクルを導入するかを予め決めておく必要がある。

5) プログラム参加者に対するアンケートを実施する。

盛岡 YMCA が運営する放課後児童クラブ「ぶらいむ・たいむ」4 校に於いて実施しました。207 名の保護者にアンケートをお願いし、返答は 72 名。返答率は 35%でした。担当者が集計して職員全員に回覧しました。このことにより、「ぶらいむ・たいむ」が評価されている点、改善すべき点が明らかになりました。

▶ 今後の課題

アンケートを具体的に分析して改善点を具体的なアクションプランを作成するまでには至っていません。チャイルドケア統括を中心にプロジェクトチームを編成し、改善に向けて具体的な取組みを行っていく必要があります。

■ 通常プログラム募集実績

	2019年予算	2018年実績	2019年実績	対予算	対前年度
サッカースクール	135	118	103	△32	△15
水泳教室	140	109	97	△43	△12
放課後児童クラブ	225	198	203	△22	5
体育教室	10	6	9	△1	3
生涯学習	30	11	15	△15	4
宮古サッカー		22	46		24



■ 野外活動募集実績

	2019年予算	2018年実績	2019年実績	対予算	対前年度
定例野外活動 ※ 2018年度はこぐま、カシオペア、すばる、オリオンクラスの合計人数					
4月活動	30	15	32	2	17
5月活動	30	40	37	7	△3
6月活動	30	34	29	△1	△5
8月活動	30	34	25	△5	△9
9月活動	32	31	25	△7	△6
10月活動	32	43	39	7	△4
11月活動	32	36	21	△11	△15
1月活動	32	36	35	3	△1
2月活動	22	22	26	4	4
3月活動	20	9	※	△20	△9
定例野外計	290	300	269	△21	△31

季節キャンプ					
わんぱくキャンプ	35	32	22	△13	△10
森の大自然満喫キャンプ	30	14	33	3	19
サッカーキャンプ	25	16	36	11	20
星空満天キャンプ	25	30	35	10	5
島のわくわくキャンプ	30	27	37	7	10
ジュニアスキーキャンプ	30	23	48	18	25
ダイナミックスキーキャンプ	20	15	23	3	8
日帰りスキー教室	25	13	9	△16	△4
季節キャンプ計	220	170	243	23	73



▲ 8月 於：宮城県気仙沼大島



▲ 10月 於：岩手県二戸市御所野縄文公園

計画3. 盛岡 YMCA と協働する団体を増やす

国連が提唱する持続可能な社会開発のための17のグローバル目標SDGsについて盛岡YMCAとして積極的に取り組むとともに、地域の諸団体とつながり、伴に協力して地域社会での浸透、推進を図る。

1) 岩手県におけるSDGsの推進役として、地域の諸団体と協働してその普及に努める。

盛岡YMCAは、昨年度末からSDGsへの取り組みを行ってきましたが、今年度は以下の場においてYMCAの取り組みを紹介することができました。

行事名	日程	場所	発題者
NPO 活動交流センター活動推進フォーラム ～SDGsの具体的な活用を知る～	9月12日	大船渡市防災観光交流センター	濱塚有史
	9月13日	盛岡市プラザおでってホール	

こどもエコクラブサポーターズミーティング 「SDGSを知っていますか？」		1月12日	岩手情報交流センター 「アイーナ」団体活動室	濱塚有史
---	--	-------	---------------------------	------

2) 盛岡YMCAの関係者にSDGSを浸透させる。

毎月発行している盛岡YMCAニュースのそれぞれの記事の横には、その活動が該当するSDGSの17の目標のアイコンを添付して紹介するようにしました。

3) 台湾のYMCAとの交流を推進する。

具体的なアクションを起こすことができませんでした。

▶ 今後の課題

盛岡YMCA内で、SDGSに関する学びを深めていく必要があります。小学校低学年の子どもたちに概念を説明するのは難しい部分もあるので、具体的なアクションとしては高学年向けにカードゲームを用いたプログラムを実施するなど、他団体の取組みを参考にし、プログラム化していくことも考えられます。

また、台湾のYMCAとの交流については、今年度は、新型コロナウイルスの影響で直接に行き来することは困難予想されますのでユースリーダー同士のWeb会議など、SNSを駆使した「はなれていてもつながっている」関係性を構築していくことも考えられます。

計画4. YMCAが社会的に弱くされている人びとに寄り添う機会を増やす

互いを認め合い、心を開き、分かち合い、すべての人に開かれるYMCAとしてポジティブネットのある社会の実現に努める。特に社会的に弱くされている人びとや孤立している人々に寄り添う活動を諸団体と連携して取り組む。

1) いじめのない社会を目指すピンクシャツデーの開催を他団体にも呼びかけ、計画的に開催する。

ピンクシャツデーは、いじめをなくすことを目的に毎年2月の最終水曜日に、全国YMCAが中心に行っているカナダ発祥の運動です。盛岡YMCAは、これまでの取組みの反省から「ただのイベントで終わらせるのではなく日常的な取組みにしていく」ことを目標に、年度当初に職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、早い時期から準備を開始してきました。

① 「ぶらいむ・たいむ」における取組み

盛岡YMCAが展開する4つのセンターのそれぞれの「放課後児童クラブ(ぶらいむ・たいむ)」のフルタイム、パートタイム職員で、YMCA内でいじめについて話合いました。その結果、日常の保育の現場で、全くその傾向がないわけでない。言葉使い、態度、集団の遊びの中にいじめに発展しかねない事例もあるということが確認されました。こうした視点にたち、それぞれの放課後児童クラブにおいて以下の取組みを行いました。

ぷらいむ・たいむ「本町校」

■ 取組み

・2月25日 低学年、中学年、高学年のグループに分けて、それぞれのグループにおいて、「いじめって何だろう?」「いじめにあったらどうする?」2つのテーマについて話し合いを行った。

・2月26日 仲間外れがちなちょっと変わった男子の持つ世界の広がりについて書かれた絵本「ウエズレーの国」についてグループに分かれて話し合いを行い、それぞれが感じたことをグループ毎に発表を行った。

▶ ふりかえり

・小グループでしかも、年齢の近い子どもたちのグループでの話し合いを通して普段は自分から話をしない子ども自分の考えや思いを話すことができていた。

・毎年ピンクシャツデーの取組みを行っているので、2年生以上の子どもの間では、この取組みの意図が浸透してきているように思えた。



ぷらいむ・たいむ「前湯校」

■ 取組み



・2月14日 子ども向けの法律書「こども六法」を教材に子どもたちに自分たちで「まえがた六法」を作成してはどうかと職員サイドから提案した。子どもたちの理解を得た上で6つのテーマ「悪口」「暴力」「無視する」「仲間外れにする」「優しい言葉って?」「思いやりのある行動って?」についてのワークシートを配布し、家族の人と一緒に考えてもらうようお願いした。

・2月21日 6つのテーマについて考えてもらったことをスライドショーを使い、全員で共有した。その後、テーマ別に6つのグループに分かれて話し合いを行い、その内容を模造紙にまとめて発表した。後日、それをまとめた小冊子を作成し、『まえがた六法』とした。

・2月26日 盛岡市のボランティアグループ「あーちゃん読み聞かせ隊」の方々に来ていただき、読み聞かせを行った。

▶ ふりかえり

その後、学童内に置いてある、自分たちで作成した『まえがた六法』の冊子を子どもたちが読

み返している場面をみかけるようになった。イベントの時だけでなく、継続的にいじめに対する問題意識が子どもたちの中でも芽生えているようだ。

ぷらいむ・たいむ「向中野校」

■ 取組み

・3月24日に昼食終了後、ピンクシャツデーの以下の取り組みについて話した。

①友だち同士で良いことをしている人を見つけたら、リーダーよりピンクのシールがもらえる。

②そのシールを玄関前に貼ってある白いシャツのイラストへ貼っていき、ピンクのシャツにしていく。

3月24日の話をした直後から活動は開始され、4月9日現在も活動が続いている。

▶ ふりかえり

お互いの良いところを見つけること、リーダーとしてもこれまで以上に子どもたちの良いところに目を向けるきっかけとなった。今後もできる限り継続していくことで、学童に参加している子どもたちの中で良いところを見つけることが当たり前になり、ケンカやルールを破ってしまうことを子どもたち同士で気付きあっていけるようになれば良いと考える。

ぷらいむ・たいむ「盛南校」

■ 取組み

- ・2月26日に子どもたちを4グループに分け、いじめについてのクイズを出題。その後、クイズの答えについて、なぜその結果になったのかをグループごとに話しあい、発表した。
- ・27日に『されていやだったこと』をピンクのしおりに書いてもらい、それをTシャツ型に切り出した用紙に張り掲示した。
- ・28日に『27日、書いてもらったことをなくすためにどうすればいいか』をピンクのしおりに書いてもらい、それをTシャツ型に切り出した用紙に張り掲示した。

▶ ふりかえり

- ・26日のプログラムについては、各グループいじめについて、様々な角度から意見が出ていた。また、後日このことについて、何人かの児童に、どう思ったかを聞いたところ『いじめをなくすには、まず違いを認めるところから』という返答を確認できた。
- ・低学年向けとして、27～28日のプログラムを行ったが、低学年は、比較的熱心に書いてくれる子もいたが、高学年の子については、興味を示さない子が複数いた。
- ・計画には、保護者への報告を入れていたが行うことができなかった。

② 職員研修会

2月26日（水）には、いじめに対する研修会を開催しました。職員、リーダー20名が参加しました。子どもたちの人権意識を高めて、虐待、いじめ、誘拐、性被害などさまざまな暴力から子どもたち自身が自分を守る人権教育プログラムを実践している「CAP 岩手」から講師をお招きし、ワークショップを通していじめに対する学びを深めました。



③ 広がる運動の輪

盛岡 YMCA 内の運動から、県内のさまざまな団体に協力を呼びかけ、運動に参加していただきました。



仙北中学校男子バレーボール部	盛岡医療福祉専門学校スポーツ健康学科	みちのくプロレス
みんなの居場所「そらいろ」	認定 NPO 法人 accommon(アコモン)	「まなびの HIROBA」

2) 課題を抱える中学、高校生の居場所づくりを行う。

ユース委員会を中心として取り組みを行ってきました。課題を抱える中高生を対象というよりも、気軽に集まれる場所を作る目的のもとプログラムを行いました。

行事名	日程	場所	参加者数
バーベキュー大会	6月6日	内丸教会	3名
中高生キャンプ2019	9月7日～8日	秋田県田沢湖キャンプ場	4名
今を楽しむには	2月23日	盛岡スコレ高校体育館	15名

▶ 今後の課題

- ・参加者数が少ないのが課題。年度の早い時期からの告知が必要
- ・まずは、YMCA 関係者を通しての口コミから勧誘を始めていく。

3) 参加費で障がいのある子どもたちを支援するとともに、“障がい”への社会的な理解と関心を高めることを目的とした駅伝大会「盛岡 YMCA インターナショナル・チャリティーラン」の参加者、協力者を増やすとともに、この大会を地域社会により積極的にアピールする。

9月23日(祝)、当日は台風17号の接近に伴い、体育館での開催となりましたが23チーム154名の参加をいただき、参加者のご家族、ボランティアを含めると約300名が集う大会となりました。益金の468,535円は、全国のYMCA並びに盛岡YMCAが実施する障がいを持った子どもたちを対象としたプログラムの費用に使用されます。



▶ 今後の課題

台風のため、前日に急遽体育館での開催に変更しましたが、学生ボランティアリーダーが以前から代替プログラムを検討しており、スムーズに開催することができました。年々、YMCA内部の参加者の割合が増加しているは嬉しいことですが、YMCA以外の地域の諸団体や個人の参加の増加に向けての働きかけも今後必要となってきています。

4) すべての人々が国籍・民族・宗教のちがいにらず、平和に生き生きと暮らせる社会の実現を願って、国際協力募金活動を行う。YMCAの行う国際協力募金の賛同者を増やす。

今年度の国際協力募金活動は30万円にしました。盛岡YMCAのリーダーが2月に日本YMCA同盟主催のインドスタディキャンプに参加した際に訪問した南インドタミルナドゥ州にある児童養護施設セントボンファス・アンバハムに送金することを目的にしました。募金活動は、2019年11月1日から2020年3月31日まで5ヶ月間行われました。

① 国際協力街頭募金

11月23日(祝)盛岡市内各所において国際協力街頭募金が行われました。盛岡YMCAの放課後児童クラブ「ぶらいむ・たいむ」、サッカースクール、水泳教室、体育教室に通う小学生に加え、盛岡スコレ高等学校、盛岡一高の生徒、大学生ボランティアリーダー、もりおかワイズメンズクラブの方々など約70名の人々が参加しました。募金額は過去最高の244,235円が集まりました。



② 盛岡YMCAクリスマス会

12月8日(火)クリスマス会を日本基督教団内丸教会にて執り行いました。今回は世界の平和をテーマに、クリスマスと平和についてのメッセージを中原眞澄牧師よりいただきました。当日は来場した67名に加え、職員・大学生ボランティアリーダー合わせて81名で盛大なクリスマス会となりました。当日の席上寄付は、42,310円となりました。

③ 個人による寄付

11月1日から3月31日までの個人寄付の合計は、166,490円となりました。

④ 送金額

諸経費を除いた373,448円が日本YMCA同盟に送金されました。

▶ 今後の課題

2019年2月、実際にインド・スタディキャンプに参加した尾河芽生さん(ピリケンリーダー)と東彩由海さん(マックスリーダー)からインドの社会の状況や現地の子どもたちの様子などを盛岡YMCAニュースな

どを通して丁寧に説明できたことで、盛岡 YMCA 内でも例年はない、ムーブメントが発生しました。今後も YMCA の持つ世界規模のネットワークを活かして世界のそれぞれの国や地域の YMCA に集う人たちの様子を分かりやすく会員に伝えていきます。

5) 岩手県宮古市で行っている被災者復興支援活動をより地域団体と協働して継続する。また、ユースを中心とした「ふくしま」についての学びを継続する。

① 宮古サッカースクール

毎週火曜日に宮古小学校の校庭を会場にサッカースクールを開講しています。これは震災当初、児童公園に仮設住宅が建設され、遊ぶ機会が制限された子どもたちに思い切り体を動かす機会を提供しようという目的で 2012 年に開始されて以来、8 年間継続しています。このスクールには現在、40 名を超える子どもたちが登録しています。

② 宮古夏祭り

7 月 27 日（土）に開催された宮古夏祭りではもりおかワイズメンズクラブの協力のもと、学生リーダーと宮古サッカースクールに通っている子どもたちが富士宮焼きそばの屋台を出店しました。益金の 15,000 円は熊本 YMCA が行う熊本地震被災地復興支援活動に送金されました。



③ 思いっきりサマーキャンプ

こちらも、2012 年から毎年、夏に開催しているプログラムです。今年度は 8 月 6 日（火）から 8 日（木）まで 2 泊 3 日、秋田県仙北市にある田沢湖キャンプ場において開催しました。宮古市内並びに山田町から 30 名の子どもたちの参加がありました。

④ 宮古サーモンマラソン

11 月 10 日（日）宮古市で開催された宮古サーモンマラソンに YMCA 職員 1 名と学生ボランティアリーダー 2 名が参加してきました。サッカースクールやキャンプに参加した子どもたちと交流する機会が持てました。

⑤ ふくしまスタディツアー



9 月 4 日（水）から 5 日（木）、1 泊 2 日の日程でふくしまスタディツアーをとちぎ YMCA との共催で開催しました。とちぎ YMCA から 7 名、盛岡 YMCA から 7 名の学生リーダーの参加がありました。震災以来、東北ヘルプの事務局長として福島での活動を続けてこられた石巻栄光教会の川上直哉牧師（仙台青葉城ワイズメンズクラブ）をチャプレンに迎え、小高プラットフォーム、希望の牧場、原町教会を訪問し福島に生きる人々の生の声に実際に耳を傾けました。また、川上先生のご紹介で、南相馬市鹿島区

にある浄土真宗の勝縁寺に宿泊し、湯澤住職のお話を聞き、キリスト教、仏教両面から人間の心の救済の問題について深く学ぶことができました。

▶ 今後の課題

・宮古での活動は次年度をもって10年間の復興支援活動を終了する予定です。これまでの活動の歩みを記録する記念誌の発行の準備を進めていきます。

・ふくしまスタディツアーについては、今後東日本各地のYMCAに参加を呼びかけていくと同時に、この活動が盛岡YMCAだけの活動でなく、全国YMCAの活動に拡大するように働きかけていきます。

6) 盛岡 YMCA が行うプログラムに経済的理由により、参加できない子どもたちを支援する「盛岡 YMCA ポジティブネットこども募金」を創設する。

具体的なアクションを実施することができませんでした。

▶ 今後の課題

2020年度は、盛岡YMCAのプログラムを総合的に充実させることを優先したいと考えています。「盛岡YMCA ポジティブネットこども募金」については、2021年以後の課題と致します。

7) こども一人ひとりの発達特性や生活課題を理解し、個々に応じた支援の充実ができるよう、児童発達支援事業や放課後等デイサービスなどの新規事業やプログラムの調査、準備を開始する。

放課後等デイサービスについては、盛南センターの隣の物件を賃借し、事業を開始できないか検討をしましたが、調査の結果、盛岡市は中心部から半径5キロ以内（盛南センターも含む）に約20箇所の放課後等デイサービスの事業所があり、飽和状態であることが判明しました。その後、調査はストップしている状態です。

▶ 今後の課題

山梨YMCAの例をとると、甲府市内でも事業者が多いなかで、YMCAは評判を呼び、順調に登録者を増やしているとの報告もあり、再度その可能性についての調査、研究を進めていきます。

方針 II. YMCA をより深く、

長く経験してもらおう。

プログラム参加者ならびにその家族に対して盛岡 YMCA が伴走者としてより深く、長く関わっていくことができるように、盛岡 YMCA の組織としての伴走力を強化する。

▽ 2017年 第1回チャリティーラン

ここで言う伴走とは、YMCA とプログラムの参加者との関係を単にサービスの提供者、受益者という関係で終わらせることなく、共に「みつかる。つながる。よくなっていく。」ことでポジティブネットのある豊かな社会の実現を目指すパートナーとしてより深く、かつ長く関わっていける関係性を築くことを意味します。

こうした、関わり方は、YMCA は今までも行ってきただけではありますが、どちらかというに関わるスタッフ個人のパーソナリティや努力に依拠する割合が大でした。方針 II ではこうしたあり方を職員やボランティアリーダーへの研修や体制を整えることにより、一部の個人に力に依るのではなく、盛岡 YMCA に関わる全ての人の力が結集した総合力として、プログラム参加者、その家族や地域と伴走していくことを目指すことを示しました。



計画 5. より深く関わる

盛岡 YMCA に関わる人々間のコミュニケーションの質を高める。

より深く関わるためには、参加者やその家族が YMCA が提供するサービスに満足してもらわなければなりません。そのためには、実際にプログラムを実施する職員やリーダーにおいて効果的なコミュニケーションが図られ、常に情報を共有しながら、プログラムの内容が少しでも「よくなっていく」取組みがなされなければなりません。

① 各センターやプログラムにおける取組みについて

月例のミーティングや、申し送り事項の確認など、コミュニケーションの質を高める工夫がそれぞれのセンターにおいて行われました。

② コミュニケーションの質を高めるために

当初は、効果的な会の持ち方についてハンドブックを作成し、それをを用いての研修を職員、ボランティアリーダーにおいて開催する予定でしたが、それができずに終わりました。

▶ 今後の課題

3月末に「会の持ち方、活かした方」のパンフレットが完成したので、これを用いて職員、リーダーを対象

とした研修を行い、効果的な会やミーティングを開催し、コミュニケーションの質を高めるようにしていきます。また、2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動自粛もあり、それぞれの行動が大きく制限される可能性があります。今後はZOOMやスカイプなど、SNSを活用したミーティングのあり方も検討し、「はなれていてもつながっている」工夫をしていきます。

計画 6. より深く関わる②

特に、YMCA プログラムに参加する子どもたちの家庭とのコミュニケーションを強化する。

家庭とのコミュニケーションを強化していくには、「ぷらいむ・たいむ（放課後児童クラブ）」においては、保護者の方が子どもたちをお迎えに来る時がチャンスですが、短い時間帯にお迎えが集中したり、駐車場のスペースを確保できないこともあり、ほぼ難しいのが現状です。また、サッカー、体育、水泳等のプログラムにおいては続けて2回以上欠席した家庭への電話での声がけ等は担当者の努力で比較的丁寧に行うことはできていました。

▶ 今後の課題

各センター、プログラム毎の対応ではなく、盛岡 YMCA として一貫した※アウトリーチの体制を整えていく必要があります。次年度の重要課題として伴走プログラムのプロジェクトチームの中で、検討していきます。

※ さまざまな形で、必要な人に必要なサービスと情報を届けること。対象者の把握だけに留まらない。

計画 7. より長く関わる

今後、日本の YMCA が進める「子育てと子育て」伴走プロジェクトをスムーズに内容の伴った形で推進できるように、全国の取組みに先駆けて盛岡 YMCA としての取組みを開始する。

子どもたちの成長を考える際、従来は大人の視点である「子育て」を中心に考えがちでした。これに対し「子育て」とは、本来子どもが生まれてきた世界を感じ、学び、自身で育とうとする生来の力を大切に、子ども自身の発育や知性、感性の発達に目を向けることを意味します。全国の YMCA が展開する「子育てと子育て」伴走プロジェクトは、「子育て」「子育て」両方の視点に目を向けながら子ども、家族、そして家族が暮らす地域の伴走者としてより深く、長く関わっていくことを目指します。

① 全国の YMCA のパイロットプログラムとして伴走プロジェクトを既に行っている茨城 YMCA に盛南センターの職員、中村渉を研修に派遣しました。(1/20-22)

② 11月26日(火)茨城 YMCA の職員 加川貴俊さん(ドクリーダー)にお招きし、茨城 YMCA の行っている「YMCA 伴走サポート」についてフルタイム職員全員による研修の時を持ちました。

▶ 今後の課題

前期は、盛南センターの「ぷらいむ・たいむ盛南校」で導入を開始し、今年度は9月から全センターの「ぷらいむ・たいむ」において導入を目指します。

方針III. 盛岡 YMCA をよくする。

盛岡 YMCA のビジョンを立てる。

盛岡 YMCA の課題を整理、改善するとともに盛岡 YMCA の中期計画を策定し、盛岡 YMCA の今後すすむべき方向を定める。

計画 8. ビジョンを明確にする。

盛岡 YMCA 中期計画を定める。盛岡 YMCA が何を目的に何をどうしていくかを関わる一人ひとりが共通理解を持って運動を推進していけるようにする。

放課後児童クラブ「ぶらいむ・たいむ」の会員を対象にアンケートを実施しましたが、全プログラムを対象とした調査はできず、中期計画を策定するまでには至りませんでした。一方で、それぞれの事業、プロジェクトで丁寧に事業計画に沿ったアクションプランを作成し、10 月末には、中間評価をおこなう中で、盛岡 YMCA の抱える課題と今後の方向性がある程度明らかになってきました。

▶ 今後の課題

変動が激しく、長期の計画をイメージしにくい中、この1年間の活動を丁寧に振り返りを行う中で大分課題が整理されてきました。今後5年間については、以下の10項目をベースに中期計画の原案の作成を進めていきます。

- ① 「YMCA 伴走サポート」「キャラクターディベロップメント運動」を全てのプログラムに於いて実行する。
- ② 会員、その家族に盛岡 YMCA の行う、ピンクシャツデー、チャリティーラン、国際協力募金などのプロジェクトへの参加を促し、メンバーシップバイデザインを推進する。
- ③ 盛岡 YMCA のプログラムに参加していた子どもたちが中学生、高校生になっても YMCA につながっていけるようなプログラム、プロジェクトを開発する。
- ④ 新たな放課後児童クラブ「ぶらいむ・たいむ」の拠点または、放課後等デイサービス、指定管理などの進出を図る。
- ⑤ 野外活動を強化し、そのノウハウを様々な分野に活かす。
- ⑥ 食に関するプログラムの開発に努める。
- ⑦ YMCA の世界的なネットワークを活かし国際交流活動を推進する。
- ⑧ 職員の働き方改革を進める。
- ⑨ ボランティアを増強する。
- ⑩ 地域の課題を解決するプログラムを開発し推進する。

計画 9. 課題を整理し、制度を整える。

YMCA 運動を推進する一人ひとりが健康的に、充実感を持って運動に関われるように働き方改革の推進に取り組む。総務機能を充実させ、事務の簡略化、ICT 化、会議の持ち方、研修制度を見直す。

- ・各センター平均2台の割合でパソコンを配置しました。
- ・グーグルドキュメント、グーグルスプレッドシートの有効活用を行いました。
- ・プログラムの募集状況の細かい分析が行われました。
- ・アクションプランの中間評価、年間評価が確実に行われました。
- ・職員に対して年間を通して以下の研修会を開催しました。



期日	テーマ	開催場所	講師
4月18日	ポジティブネットのある社会について	向中野センター	濱塚有史
11月26日	YMCA 伴走プログラムについて	本町センター	茨城 YMCA 加川貴俊スタッフ
12月6日	YMCA におけるコンプライアンスについて	向中野センター	東京 YMCA 保坂弘志広報室 I T 室室長
2月13日	キャラクターディベロップメント運動について	本町センター	横浜 YMCA 田口努総主事
2月26日	いじめについて 大人ワークショップ	アイーナ6F 団体活動室	CAP 岩手

- ・以下の職員を研修派遣しました。

期日	内容	開催場所	研修者
1/17-19	YMCA 農村青年塾	YMCA 東山荘	武田悠
1/20-22	伴走プログラムの実務	茨城 YMCA	中村渉
1/25-26	全国チャイルドケア担当者会	在日韓国 YMCA アジア青少年センター	東森聡
1/29-30	東日本地区 YMCA スタッフ研修会 震災後の福島の実況について	福島県双葉町、小高町、 南相馬市、相馬市	菅原歩
2/15-16	ワイズメンズクラブ北東部 ユースリーダーズアクト 地域活動	栃木県宇都宮市	相馬みなみ 野澤朋華

計画 10. 組織基盤を強化する。

盛岡 YMCA の推進する運動をより地域社会から理解や信頼を獲得するため、認定 NPO 法人格を取得する。

認定 NPO 法人格の取得の作業を進めることができませんでした。

▶ 今後の課題

法人格取得の手続きの事務作業を整理し、計画的に準備を進めていきます。

盛岡 YMCA
総主事 濱塚有史

その他 統計資料 3月31日現在

維持会費、寄付、プログラム募集実績

	A 2019年予算	B 2018年実績	C 2019年実績	対予算	対前年度
本部					
維持会費	800,000	655,000	573,000	△227,000	△82,000
寄附金	250,000	404,278	407,000	157,000	2,722

特別活動募集実績

ファミリーサッカー大会	50	雨天中止	37	△13	
チャンピオンズカップ	80	88	85	5	△3
フットサル大会	40	49	※	※	※
イベント計	170	137	122	△8	

※コロナウイルス感染症対策のため中止

野外活動募集実績

	A 2019年予算	B 2018年実績	C 2019年実績	対予算	対前年度
定例野外活動 ※ 2018年度はこぐま、カシオペア、すばる、オリオンクラスの合計人数					
4月活動	30	15	32	2	17
5月活動	30	40	37	7	△3
6月活動	30	34	29	△1	△5
8月活動	30	34	25	△5	△9
9月活動	32	31	25	△7	△6
10月活動	32	43	39	7	△4
11月活動	32	36	21	△11	△15
1月活動	32	36	35	3	△1
2月活動	22	22	26	4	4
3月活動	20	9	※	△20	△9
定例野外計	290	300	269	△21	△31
季節キャンプ					
わんぱくキャンプ	35	32	22	△13	△10
森の大自然満喫キャンプ	30	14	33	3	19
サッカーキャンプ	25	16	36	11	20
星空満天キャンプ	25	30	35	10	5
島のわくわくキャンプ	30	27	37	7	10
ジュニアスキーキャンプ	30	23	48	18	25
ダイナミックスキーキャンプ	20	15	23	3	8
日帰りスキー教室	25	13	9	△16	△4
季節キャンプ計	220	170	243	23	73

定例プログラム募集実績

	A 2019年予算	B 2018年実績	C 2019年実績	対予算	対前年度
サッカー	135	118	103	△32	△15
水泳	140	109	97	△43	△12
学童	225	198	203	△22	5
体育教室	10	6	9	△1	3
生涯学習	30	11	15	△15	4
宮古		22	46		24

■2019年度 盛岡 YMCA 活動報告 (2019年4月1日～)

A. 理事会・常議員会・会員総会

月日	行事	場所	出席	主な議題
4月26日	常議員会、理事会	いわて情報交流センター	12	役員改選、会員総会内容
5月18日	会員総会	日本基督教団内丸教会	68	18年度事業、会計報告、19年度計画予算
8月22日	常議員会、理事会	いわて情報交流センター	9	事業活動、会計報告4-8月
10月24日	常議員会、理事会	いわて情報交流センター	11	2019年度 中間報告
11月28日	常議員会、理事会	いわて情報交流センター	13	2020年度活動方針について
1月23日	常議員会、理事会	いわて情報交流センター	11	2020年度事業計画について
2月20日	常議員会、理事会	いわて情報交流センター	12	2020年度予算について

B. チャリティーラン実行委員会

月日	行事	場所	出席	主な議題
6月11日	第1回実行委員会	いわて情報交流センター	12	スケジュール、実施体制、参加費について
7月2日	第2回実行委員会	いわて情報交流センター	20	賞品、雨天時プログラム、パンフレット
7月22日	第3回実行委員会	いわて情報交流センター	18	午後の部、広報、記念品について
8月27日	第4回実行委員会	いわて情報交流センター	14	募集状況、午後の部プログラムについて
9月11日	第5回実行委員会	いわて情報交流センター	17	募集状況、雨天時、当日役割について

C. ユース委員会

月日	行事	場所	出席	主な議題
4月27日	第1回委員会	日本基督教団内丸教会	9	2019年度企画について
5月25日	第2回委員会	日本基督教団内丸教会	6	6月企画のバーベキューについて
6月22日	第3回委員会	日本基督教団内丸教会	6	バーベキュー報告、中高生キャンプについて
9月11日	第4回委員会	日本基督教団内丸教会	7	中高生キャンプ進捗 次回活動について
10月27日	第5回委員会	日本基督教団内丸教会	7	中高生キャンプ報告 2月活動進捗について
12月15日	第6回委員会	日本基督教団内丸教会	6	次年度中高生キャンプ会場について、2月活動進捗について
2月9日	第7回委員会	盛岡 YMCA 本町センター	5	2月活動進捗確認、2020年度について

D. 職員研修

月日	行事	場所	出席	内容
4月18日	研修	向中野センター	14	KPI サマーキャンプについて
10月21日	職員礼拝	日本基督教団内丸教会	13	礼拝 茶話会
3月4日	職員礼拝			コロナウイルス感染症対策のため中止

E. 特別活動

月日	行事	場所	出席	内容
9月7-8	中高生キャンプ2019	秋田県田沢湖キャンプ場	4	
9月23日	第3盛岡YMCA インターナショナル チャリティーラン2019	岩手県立大学	260	
10月14日	チャリティーバザー	盛岡YMCA 向中野センター	130	益金は熊本地震被災地支援に
11月9-10	前潟校お泊り会	前潟センター	31	

F. リーダートレーニング

月日	講師	場所	出席	内容
4月6日	盛岡YMCAリーダー会	日本キリスト教団内丸教会	94	新入生歓迎会（オリエンテーション、食事会）
4月15日	盛岡YMCAリーダー会	日本キリスト教団内丸教会	57	新入生歓迎会（オリエンテーション、食事会）
4月28-29	盛岡YMCAリーダー会	岩手山青少年交流の家	91	新歓キャンプ テント設営、野外料理、ゲーム
6月5日	濱塚有史	日本キリスト教団内丸教会	52	YMCA理解
6月9日	武田悠 向平悟	仁王地区活動センター	57	プログラム理解
6月12日	廣田光司	日本キリスト教団内丸教会	53	安全理解
6月22日	東野真理子	日本キリスト教団内丸教会	46	食中毒理解
6月23日	盛岡中央消防署	盛岡中央消防署	56	救急法
6月29日	名古屋恒彦	日本キリスト教団内丸教会	50	発達障がい理解
6月30日	小川嘉文 浅沼慧	YMCA 向中野センター	47	人間関係トレーニング
11月27日	向平悟	日本キリスト教団内丸教会	32	リーダー理解
11月30日	日本赤十字社	日本キリスト教団内丸教会	30	冬の救急法
12月5日	東京YMCA 保坂弘志	日本キリスト教団内丸教会	37	コンプライアンスについて
12月11日	向平悟	日本キリスト教団内丸教会	38	安全理解・スキー技術
12月21日 ～22日	向平悟 武田悠 浅沼慧 小林明彦	安比高原スキー場	34	1泊リーダートレーニング

G. 定例野外活動

ちきゅうと、あそぼう。

日程	行事名	開催場所	参加者	リーダー	スタッフ
4月21日	春のお花見町探検♪	盛岡城跡公園周辺	32	20	2
5月26日	めざせ！森のシェフ	盛岡市外山森林公園	37	29	2
6月15-16日	テントに泊まろう♪	岩手県民の森	29	19	3
8月25日	川で遊ぼう♪	中津川 盛岡城跡公園	25	16	2
9月14-16日	タイムスリップキャンプ	御所野縄文公園	25	9	2
10月27日	チャレンジ本格ピザ作り♪	外山森林公園	39	18	2
11月17日	馬のお世話体験をしよう♪	馬っこパーク・いわて	21	16	1
1月26日	ワカサギ釣りへ行こう♪	岩洞湖	35	9	2

2月23日-24日	雪ん子キャンプ	国立岩手山青少年交流の家	26	11	2
3月29日-31日	わくわく三陸体験ツアー	大船渡周辺	※	※	※

H. 季節野外活動

日程	行事名	開催場所	参加者	リーダー	スタッフ
7月14日-15日	わんぱくキャンプ	都南つどの森	22	12	2
8月7日-8日	森の大自然満喫キャンプ	盛岡市外山森林公園	33	5	1
7月31日-8月3日	サッカーキャンプ	いこいの村 岩手	36	5	1
8月4日-6日	星空満天キャンプ	網張温泉キャンプ場	35	8	2
8月9日-12日	島のわくわくキャンプ	休暇村気仙沼大島	37	11	2
12月27日-29日	ジュニアスキーキャンプ	八幡平パノラマスキー場	48	9	3
1月12日-14日	ダイナミックスキーキャンプ	安比高原スキー場	23	9	2
1月19日	日帰りスキー教室	八幡平パノラマスキー場	9	5	1

I. サッカー大会

日程	行事名	開催場所	参加者	リーダー	スタッフ
7月7日	ファミリーサッカーフェスティバル	高松公園	37	15	4
11月4日	チャンピオンズカップ	高松公園	85	20	9
3月7日	フットサル大会		※	※	※
1月7日~10日	サッカー合宿	いこいの村岩手	12	0	1
3月26日~29日	サッカー合宿	いこいの村	※	※	※

J. サンデースクール

日程	行事名	開催場所	参加者	リーダー	スタッフ
4月27日	クロワッサンを作ろう!!	仁王地区活動センター	9	10	0
5月19日	資料を集めて写真立てを作ろう!	日本基督教団内丸教会	9	23	0
6月9日	竹で水鉄砲を作って遊ぼう!!	YMCA 向中野センター	28	15	1
10月20日	フォーチュンクッキーをつくろう!	仙北地区活動センター	18	12	1
11月24日	キンボールで遊ぼう!	青山地区活動センター-体育館	14	13	2
2月9日	「〇〇パイ」づくり♪	仁王地区活動センター	20	11	1

K. 東日本大震災被災地復興支援事業

日程	行事名	開催場所	参加者	リーダー	スタッフ
野外活動					
8月5日-7日	思いっきりサマーキャンプ	秋田県田沢湖キャンプ場	31	8	2
	イワナ採卵体験(中止)	宮古市和井内養鱒場			
サッカースクール					
4月-7月	サッカー1期	宮古小グラウンド	27	2	2
9月-12月	サッカー2期	宮古小グラウンド	46	4	2
1月-3月	サッカー3期	宮古小グラウンド	46	4	2
11月3日	チャンピオンズカップ	高松公園	22		
3月14日-15日	サッカースクールお泊まり会		※	※	※

新型コロナウイルス感染症対策のため中止としたプログラムは、※印にて記載。

■ 2019 年度盛岡 YMCA の運動を担った皆さん（敬称略・順不同）

1 維持会費・寄付

伊藤眞太郎、伊藤愛美、晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、花田瞳、一戸貞文、鶴丹谷三千代、中島敬泰、家村知佳、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、増田隆、川坂保宏、伊藤信彦、大関靖二、南原良哉、伊藤眞一郎、伊藤みどり、高瀬稔彦、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、飯島隆輔、林辰也、魚住恵、今松桂子、熊谷大樹、森山日菜乃、森山幹大、光永尚生、北田仁則、北田アユ子、東森聡、人見晃弘、尾形裕一郎、山口貴伸、井上修三、井上優子、井上浩太郎、長岡正彦、高橋友恵、水田賢次、澤田優美、平泉幸子、佐々木理香、藤原祐三、浅沼慧、浅沼美希、若井淳、及川茂夫、阿部深雪、上中優奈、植田一茂、松尾聡子、武田理恵子、佐藤洋一、菊地弘生、重石桂司、accommon、熊谷咲希、日本キリスト教団日詰教会、滝川佐渡子、浅沼誠久、高橋奈菜、水野暢夫、濱塚秋二、濱塚れい子、濱塚有史、濱塚真美、佐藤翔、古澤伸、向平悟、向平ちひろ、小川嘉文、小川明佑、濱塚直樹、濱塚恭子、廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、野澤明華、魚住英昭、大久保里美、中村圭一、菅原歩、武田悠、釜ヶ澤堯、齋藤優太、布引和生、ガイアリンク（株）、角谷晋次、神田橋慧一、中原眞澄、小林茂元、齋藤之彦、清水治彦、小林明彦、大塚英彦、深澤秀男、深澤多紀子、藤原祐三、熊谷一郎

2 ユース募金

名古屋恒彦、名古屋理恵、人見晃弘、魚住恵、上中美穂、一戸貞文、山本常雄、高瀬稔彦、増田隆、釜ヶ澤勝、大関靖二

3 国際協力募金

重石桂司、大関靖二、晴山浩輔、魚住英昭、魚住恵、澤田優美、高橋千鶴子、名古屋恒彦、名古屋理恵、東森聡、伊藤信彦、勝部開介、内館翔摩、菅原煌、齋藤優太、菊池敏子、佐々木享恵、小川嘉文、小川明佑、中野綜佑、鈴木優心、高橋結人、高橋廉翔、高橋恵翔、田口滉容、大崎新太郎、大崎蒼太、松坂育飛、大坂和通、佐々木玲緒、成ヶ澤知宙、潮田広祈、中原眞澄、中原陽子、一戸貞文、藤原雅子、小野寺航、小野寺昂、遠藤昌樹、齋藤之彦、田中楓美乃、田中啓裕、伊藤眞一郎、伊藤みどり、駒井花音、駒井想、小島歩夢、浅沼慧、浅沼美希、滝川佐波子、森山一雄、森山千恵、森山日菜乃、森山幹大、加藤眞治子、高瀬稔彦、熊谷一郎、増田隆、和美幸希、和美光祐、阿部裕斗、小笠原幸那、田中康介、若井遙、小松柚希、佐藤想純、佐藤千寿々、杉浦滉星、松田実紅、松田彩雪、佐々木隆弘、菊池健弘

4 リーダー育成募金

家村知佳、高瀬稔彦

5 東日本大震災被災地復興支援募金

松尾聡子、ワイズメンズクラブ国際協会東日本区メネット委員会、3.11 チャリティーコンサート実行委員会

6 第3回盛岡 YMCA インターナショナル・チャリティーラン 2019

（ご寄付・協賛広告）

（株）あさ開/ 安比高原ゴルフクラブ/（有）渥美工務店/（株）井上建築工房/（有）岩手浄化槽管理センター/ オートグラス岩手（株）/（株）金澤鋼業/ 北岩手環境保全（株）/（有）高橋石材店/（株）こぐま社/（株）興和電設/（株）シンエイシステ

ム/ 成和自動車自動車鍍金塗装工業（有）/（株）関商会/（有）武田工務店/宅地サポート（株）/ 東北生活支援センター（株）/宅地サポート（株）/天神町薬局/（株）中原商店/（有）ニーズ開発/安比高原 / 八幡平リゾート/フジグリーン岩手（株）/文化企業（株）/（株）三田商店 / 一般財団法人みちのく愛隣協会 東八幡平病院/ 盛岡ニッタン（株）/（株）サードスタイル・EX/（株）西部産業盛岡南ドライビングスクール/ もりおかワイズメンズクラブ/（有）横手鍍金工業所/Rashiku(株)/(株)楽天野球団/（株）理水興業/岩手県北自動車（株）/(株)岩手県北観光/オーガニック雫石/岩泉ホールディングス（株）/（株）楽天球団/（株）ミカサ/ 徳清倉庫（株）/（有）サン不動産/ 岩手焼走り温泉いこいの村岩手/ こがわタクシー/ 加賀野消化器内科・内科クリニック/ みちのくプロレス/めんこいテレビ/スーパースポーツゼビオ盛岡盛南店/ いわてグルージャ盛岡/(株)スポーツブレイン/盛岡YMCA リーダー会/盛岡YMCA 学童保育ぶらいむ・たいむ本町校、杉本修太郎、佐藤翔、高瀬稔彦、人見晃弘、及川茂夫、神田橋慧一、名古屋恒彦、名古屋理恵、小笠原健浩、遠藤昌樹、齋藤之彦、工藤悦子、小川嘉文、小川明佑、菊池弘生、濱塚秋二、濱塚有史

7 理事会（盛岡キリスト教青年会）

理事長：魚住英昭 副理事長：深澤秀男

理事：及川忠人、角谷晋次、水田賢次、濱塚有史、石渡隆司（名誉理事）、鶴丹谷三千代（名誉理事）

8 常議員会（盛岡キリスト教青年会）

常議員会議長：大関靖二 副議長：井上修三

常議員：魚住英昭、及川忠人、角谷晋次、長岡正彦、中原真澄、名古屋恒彦、深澤秀男、水田賢次、濱塚有史

監事：重石桂司、山口貴伸、加藤淳

9 理事会（NPO 法人盛岡 YMCA）

理事長：魚住英昭 副理事長：深澤秀男

理事：井上修三、及川忠人、大関靖二、角谷晋次、長岡正彦、濱塚有史、水田賢次

監事：重石桂司、山口貴伸、加藤淳

10 チャリティーラン実行委員会

実行委員長：井上修三

実行委員：浅沼慧、東彩由海、阿部孝司、石川万里子、大関靖二、尾河芽生、加藤淳、菅野真矢、菅野道生、斎藤七穂、笹川大地、佐藤大、嶋香理亜州、末廣光揮、相馬みなみ、武田悠、長岡正彦、中坂恭平、中村光晴、濱塚有史、東森聡、藤原清史、巖岩千裕、三田庸平、安恒史織

11 ユース委員会

委員長：長岡正彦

委員：梶原昌五、千葉伸行、名古屋恒彦、早坂知美、前田隼輔、湯澤直希、向平悟、小川嘉文

12 もりおかワイズメンズクラブ

会長：三田庸平

会員：井上修三、井上優子、魚住英昭、及川忠人、大関靖二、千葉伸行、長岡正彦、中原眞澄、山口貴伸、根内純、加藤淳、濱塚有史、浅沼慧、中村渉

13 盛岡 YMCA リーダー会

4年生：尾河芽生（ピリケン）、松平大知（ダイラー）、小野史織（キュービー）、湯澤直希（タイヤ）、早坂知美（ちょび）、齊藤七彩（トラック）、東彩由海（マックス）、岡田稜平（みんな）、オンホウイン（メンバー）

3年生：吉田莉那（あぐー）、小岩壯太（いわぞん）、前田隼輔（ガルベス）、宮澤秋彦（シュリンプ）、鈴木凜奈（つくし）、千葉文彦（つよぼん）、佐藤春希（まる）、大川義敬（やんぼー）、笹川大地（ラフ）、安恒史織（レモン）

2年生：高橋広徳（いそじん）、斎藤七穂（おむすび）、菅野真矢（かきぴー）、小田愛海（クララ）、佐藤真菜（こだま）、佐藤大（サスケ）、石川万里子（じーこ）、佐々木穂菜（ジェット）、渡邊拓人（しなちく）、鈴木夕喜（ズッキー）、細倉柚花（たこやき）、榊原夢花（にぼし）、久野桃（パタコ）、佐藤亜美（はっち）、鎌田航平（プロロー）、佐藤彩苗（ほや）、小椋智史（まりも）、後藤綾乃（ラムネ）

1年生：海和将太（あんこ）、葛西湖葵（いちご）、竹ノ子稜（うめぼし）、佐々木俊人（オコエ）、十文字堅斗（おび）、高橋優（おもち）、石井壱磨（カピバラ）、吉田樹（からあげ）、菊池祐都（キー坊）、向平茂（げじげじ）、島遥（ケチャップ）、星野太志（ゲン）、加藤奈緒人（コアラ）、村上詩織（こんぶ）、小林柊花（サーモン）、佐藤穂乃花（さむ）、佐藤朱理（シーサー）、早野広暉（ジグゾウ）、金崎琴音（しじみ）、小野寺智己（ジップ）、佐藤信一朗（シャトル）、遠藤悠華（ショーン）、塩見星華（ソルシー）、滝島正博（ダーマ）、達俊平（だてまき）、斉藤龍貴（たんたん）、山口真依（たんぼぼ）、工藤綾斗（ちくわ）、梁川滯（チロル）、千葉咲（てばさき）、横山日向子（てら）、遠藤佐奈（トトロ）、熊谷悠（ナッツ）、沼田晋作（ニモ）、瀧澤咲（パスカル）、煙山颯希（はたはた）、羽生蒼汰（はにわ）、千葉晴登（パラ）、長田瑠唯（パンジー）、坂本雄大（パンダ）、佐久間千夏（ピンポン）、今野瑠風（ブイ）、福井周作（フッキ）、新沼元輝（プロテイン）、小河原悠加（ぶんちん）、泉山晃希（ポイフル）、松井千紘（マップ）、小笠原花恋（まめぶ）、栗田百音（マロン）、鷹場里穂（メリー）、有原あやめ（ももっち）、八木田玲未（やぎ）、小林星輝（よこづな）、畑井俊樹（ラミちゃん）、兼澤亮（りょう）、新妻椿（リンス）、金田一陽稀（監督）、相澤貴瑛（たかあき）、小川英訓（ひでのり）、高橋舞（カカオ）

14 盛岡 YMCA 職員

濱塚有史、小川嘉文、浅沼慧、東森聡、尾形裕一郎、菅原歩、中村渉、武田悠、向平悟、中村圭一、相馬みなみ、大久保里美、野澤朋華、高橋千鶴子、工藤悦子、富岡あき子、蛭原斗和、松井美樹、藤島正吾、名古屋理恵、熊林龍、菅原いく子、池田弘美、天坂くみ子、立花尽、庄司歩美、藤原雅子、岩渕浩敬、兼平芙美子、菊池敏子、加倉慎也、伊藤明子、畠山博憲、菊池尚、伊藤ゆみ、工藤大聖、小澤翼、毛糠佳輝、藤原依音、石川麻妃、川村真也、宮田聖、松島なつみ、安本千香子、和井内和一、藤澤愛、乙部智恵子、長岡正彦、工藤千明

■ 募金活動報告

1 ユース委員会

収入総額：496,594 円

内訳	金額	割合
2018 年度からの繰越金	399,492 円	80.45%
寄附金	53,000 円	10.67%
参加費：バーベキュー、中高生キャンプ	44,100 円	8.88%
雑収入	2 円	
計	496,594 円	

支出：496,594 円

内訳	金額	割合
賃借料：貸し切りバス、キャンプ場、会場使用料等	69,545 円	14.00%
通信運搬費：スマートフォン、切手代	68,874 円	13.87%
印刷費：チラシ、ポスター作成料	6,270 円	1.26%
食材費	20,655 円	4.16%
車両燃料費	2,000 円	0.40%
消耗品費	9,991 円	2.01%
保険料	21,838 円	4.40%
支払手数料	2,903 円	0.58%
次年度繰越金	294,518 円	59.31%
計	496,594 円	

2 国際協力募金

収入総額：479,385 円

内訳	金額	割合
前年度繰り越し	26,350 円	5.50%
街頭募金(11 月 23 日)	244,235 円	50.95%
クリスマス募金(12 月 8 日)	42,310 円	8.83%
個人寄付	166,490 円	34.72%
計	479,385 円	

支出：479,385 円

内訳	金額	割合
日本 YMCA 同盟へ送金	373,448 円	77.90%
消耗品費	18,522 円	3.86%
賃借料	7,300 円	1.52%
印刷費	4,322 円	0.90%
通信運搬費	1,890 円	0.39%
支払手数料	5,544 円	1.16%
次年度繰越金	68,359 円	14.26%
	479,385 円	

3 熊本 YMCA 震災復興支援募金

収入総額：122,609 円

内訳	金額	割合
宮古夏祭り 焼きそば出店	15,000 円	12.23%
チャリティーバザー収入	107,609 円	87.77%
計	122,609 円	

支出：122,609 円

内訳	金額	割合
熊本 YMCA へ送金	77,105 円	62.89%
印刷費：チラシ作成代	4,630 円	3.78%
消耗品費	5,591 円	4.56%
販売品準備費用：食材費等	34,403 円	28.06%
支払手数料	880 円	0.72%
計	122,609 円	

4 リーダー育成

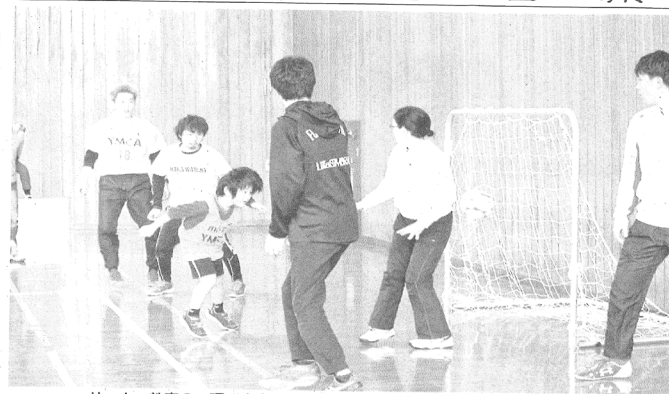
収入総額：1,340,912 円

内訳	金額	割合
前年度からの繰り越し	428,354 円	31.9%
寄附金	107,900 円	8%
参加費①（サンデースクール等）	102,200 円	7.6%
参加費②（スキーリーダートレーニング）	319,000 円	23.7%
雑収入（ユニフォーム代）	17,059 円	1.2%
写真販売収入	366,399 円	27.3%
計	1,340,912 円	

支出：1,173,280 円

内訳	金額	割合
大会参加費（フォーラム）	6,000 円	0.5%
新聞図書費（卒業リーダー記念品 聖書）	52,800 円	4.5%
諸謝金（手土産代）	5,720 円	0.5%
印刷製本費（インドスタディツアー報告書作成費）	56,160 円	4.8%
広告宣伝費（サンデーチラシ作成費）	1,882 円	0.2%
会議費（反省会リーダー補助）	13,012 円	1.1%
補食費（リーダー昼食・夕食代補助）	122,258 円	10.4%
旅費交通費（講師旅費、リーダー研修参加時旅費）	189,460 円	16.1%
宿泊費（スキーリーダートレーニング）	332,040 円	28.3%
車両燃料費（ガソリン代）	8,177 円	0.7%
通信運搬費（切手代）	16,380 円	1.4%
備品消耗品費（サンデースクール）	1,696 円	0.1%

消耗員費（サンデー材料費）	25,493 円	2.2%
賃借料（貸切バス代）	215,073 円	18.3%
保険料（スポーツ安全保険）	113,791 円	9.7%
雑支出（ユニフォーム代）	4,788 円	0.4%
研修費（安全講習会）	6,880 円	0.6%
支払い手数料	1,670 円	0.1%
次年度繰越	167,632 円	12.5%
計	1,340,912 円	



サッカー教室の一環で合宿し、交流を深める子どもと関係者＝山田町船越

今年から学生ボランティアとして教室に参加している盛岡大1年の福井周作さん(19)は、宮古市金浜出身。同育成事業の一環で企画されたスキーキャンプの出身者。震災後は「時間が止まったままな状態だった」と振り返るが、小学6年でのキャンプ体験で心から笑うことができた。「あの時、笑顔にもなった分、今度は自分が子ども

を教わる。さらに近年は支援される側だった児童が成長し、支援する立場として参加する動きも出てきた。

毎週火曜の活動では、盛岡大などの学生がリーダーとなり、毎回約20人の子どもがサッカーを教わる。さらに近年は支援される側だった児童が成長し、支援する立場として参加する動きも出てきた。

児童保育などを行う盛岡市のNPO法人盛岡YMCA(魚住英昭理事長は東日本大震災後、被災地の子どもたちにサッカー)日、宮古市大通(現在は移転)

遊び通じて促す成長

の宮古教会から建物の提供を受け、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを設置。市中部でがれき撤去などに取り組んだ。

「被災地の子ども」ということではなく、フラットな目線で接し、その元気を通して、まちを元気づけたい。サッカー教室を開いている宮古小は外からも気軽に参加してほしい。



寄り添い 続ける

えにし ▶ 52 ◀

これまでのあゆみ

2011年3月 宮古市に盛岡YMCA宮古ボランティアセンター(V.C.)を設置



11年9月 同市の仮設住宅でレクリエーション活動始める
12年4月 宮古小でサッカー教室を開始



18年3月 宮古V.C.を閉鎖
現在 サッカー教室を継続

NPO法人盛岡YMCA(盛岡)

被災地へ 子ども元気づけたい

盛岡YMCAディレクター 向平 悟さん(25) 友人の誘いで10歳から盛岡YMCAに参加し、学生ボランティアを経て現在は職員として活動に関わっている。われわれとしては、

「被災地の子ども」ということではなく、フラットな目線で接し、その元気を通して、まちを元気づけたい。サッカー教室を開いている宮古小は外からも気軽に参加してほしい。



障害者にチャリティーラン

盛岡YMCA主催 軽スポーツで160人交流

第3回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン2019(NPO法人盛岡YMCA主催)は23日、滝沢市菓子の県立大で開かれた。同日は雨天のため、予定されていたたすきリレーは中止。会場を同大体育館に移し、心身に障害のある人を含む参加者28チーム約160人が軽スポーツを通じて交流した。イベントで集まった収益金は全額、障害を持つ子どもたちのキャンプなどに使われ



さまざまなゲームで大人と一緒に盛り上がる子どもたち

る。

同法人は心身に障害のある子どもたちを支援し、理解と共感を広げること目的に活動。チャリティーランは活動の一環として、障害の有無にかかわらず全員がたすきをつないで走る。今年は雨のため体育館での軽スポーツに変更し、チーム単位でスリッパ飛ばし、曲のイントロ当てなどのさまざまなミニゲームを行うところへゲームで交流した。

YMCA登録の盛岡大、県立大、岩手大の学生や盛岡市の専門学校生ら約130人のボランティアが運営。クイズで子どもたちが正解すると一緒に喜ぶなど、体育館でも元気いっばいの子どもたちとイベントを楽しんだ。

参加した盛岡市向中野小1年の浅田昊輝君(7)は「楽しかった」と笑顔。岩手大教育学

部4年の尾河芽生さん(22)は第1回から参加。「初めての屋内だが、参加者はさまざま楽しみを見つけて楽しんでいる」と声を弾ませた。

同法人の濱塚有史総事は「イベントに参加することで、子どもにとって学びの場になっている。YMCAの活動を通して、家族や地域での学びの場を作っていきたい」と話していた。

YMCAは、世界120の国と地域で教育・スポーツ・福祉・文化などの分野で事業展開するNGO。日本では1880年に始まり、現在、全国35都市で活動している。

優しさ育む読み聞かせ YMC Aが
反いじめ運動



思いやりを題材にした絵本の読み聞かせに聞き入る子どもたち

盛岡

学童保育などを行う盛岡

市のNPO法人盛岡YMCA(魚住英昭理事長)は26日、いじめに反対するピンクシャツデー運動を行った。いじめを防ぐにはどうしたらよいか、子どもたち自身で考えた。

市内の学童保育所3カ所で行った。同市前潟のふらいむ・たいむ前潟校では、絵本読み聞かせあーちゃん隊(東森春江代表)の6人が児童25人に絵本や紙芝居を読み聞かせた。学校で困っている友達に何ができるか考える「みんな

なやさしく」など6作品を紹介。児童がいじめについて話し合った成果をピンク色のポスターにまとめ、掲示した。

土淵小1年の中村結月さんは「見て見ぬふりをせずに優しい言葉をかけたい」と誓った。

ピンクシャツデーは2月の最終水曜日に全世界で取り組まれている。2007年、カナダでピンクのシャツを着ていじめられた学生のために、学校全体でピンク色を身に着け、いじめをなくしたことに由来する。

こどもエコクラブサポーターズミーティング

「SDGsを知っていますか？」を開催しました!! ～こどもたちと自然体験・環境活動を続けていくために～

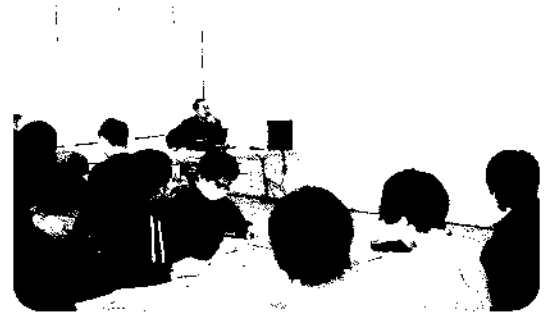
日時：1月12日(日) 13:00～16:00 会場：アイーナ6階 団体活動室

37名の参加者が集い、3名の講師を迎え、こどもエコクラブサポーターズミーティングを行いました。2つの事例発表の後にSDGs(持続可能な開発目標)を知るために、カードゲーム2030 SDGsを体験しました。

「出会いと気づき」

濱塚有史氏(特定非営利活動法人盛岡YMCA 総主事)

盛岡YMCAの濱塚さんは、YMCAの理念にもとづき東日本大震災後の「宮古を愛するこどもたち育成事業」の取組や、「地球と遊ぼう」、「サマーキャンプ」、「スキーキャンプ」を通じた子どもたちとの活動の様子と、リーダートレーニングについての活動の様子を詳しく紹介されました。



事例発表1の様子

「馬と民家で暮らし、馬から生きる力を学ぶ」

黍原豊氏(一般社団法人三陸駒舎 共働創設者・理事)

三陸駒舎の黍原豊さんは、感覚統合理論をもとにしたホースセラピーについて発表されました。子どもたちは馬と過ごす経験を通して色々な感覚を感じとり、それを脳が整理したり、まとめたりする機能を高めます。それにより、周りの状況に応じた行動が取れるということを実際に馬と触れ合う様子を交えて発表されました。

※ 感覚統合：五感を始め固有受容覚(筋肉を動かす感覚)や前庭覚(揺れを感じる感覚)も含めた複数の感覚情報をまとめたりする脳の機能のこと。



事例発表2の様子

カードゲーム「2030 SDGs」

丸尾美由紀氏(2030 SDGs公認ファシリテーター)

SDGsの達成を目指して、2030年がどうなるかを体験するカードゲーム「2030 SDGs」を12組37名の方と行いました。カードに書かれたプロジェクトを実行して2030年のゴールを目指します。結果、経済は絶好調、環境・社会も今よりずっとよくなっている2030年の世界が現れました!ゲームの前半では、各チームのゴールを達成することだけになりがちでしたが、後半は他のチームとの連携が進み、世界の状況を見て考え、行動する方が増えたことが結果につながったように思います。

カードゲームを通して、SDGsの理解を深めることにより、未来をどうしたいか、未来を担う子どもたちのために「こどもエコクラブ」でどんな支援をしたらよいか、を考える機会となりました。



カードゲーム2030 SDGs

意見交換会

事例発表とカードゲーム2030 SDGsを通して、沢山の意見と感想をいただきました。

参加者に学生さんが多くて良かった。

YMCAの取組内容をよく知ることができたので良かった。

YMCAに参加したいと感じた。

感覚統合という新しいことばを教わった。

馬は岩手と繋がりが深い。こういった活動があることを知れて良かった。

年代・職業の違う方々の意見を聞けて良かった。

思っていたよりも、色々な価値感を持っている人達が身近にいると気付けた。



**[表紙] NPO法人盛岡YMCA
ピンクシャツデー特別企画「今を楽しむには」**

ピンクシャツデーは毎年2月の最終水曜日。ピンクのシャツや物を身につけることで、いじめについて考え、いじめに反対する姿勢を示す活動です。

この活動に取り組むNPO法人盛岡YMCAでは、スポーツを通じ、日々を楽しく過ごすヒントに気付くワークショップとして、2月23日(日)に「タグラグビー」の体験講座を行いました。当日は、中高生ら15名が挑戦。大学生のボランティアも参加し、声をかけ合い笑顔で交流を深めました。

[特集] つながる・地域の元気「県央編」 …2-3

NPO法人矢巾ゆりかご	
御明神地区地域づくり会議	
岩手県からのお知らせ	4
岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センターからのお知らせ	5
NPO活動交流センターからのお知らせ	6
助成金情報	7
あなたのまちの市民活動支援のみなもと	
NPO法人シニアパワーいわて	8

2019年度 アクションプラン評価

方針Ⅰ YMCA 経験者を増やす

「盛岡YMCAの使命」を日々の働きの中で具体的に実践していくことを通しYMCA理解者、経験者を増やす。このことによりYMCAの伝えたい価値をより多くの市民に伝える。

事業計画1 (ボランティアに参画する機会を増やす)			
YMCA 運動を推進する維持会員を増やす。また、小学校高学年、中学生、ユース、シニアに至る全ての世代がボランティア活動に参画する機会を増やす。			
全体 アクションプラン			
1) 大学生ボランティアの募集を計画的に行うとともに、盛岡YMCAに登録したボランティアがその後充実した四年間を過ごせるよう、支援する体制を作る。 る場を提供する。			
3) YMCAのプログラムに参加する高学年の小2) 中学、高校生と大学生ボランティアが交流でき学生がリーダーシップを発揮できるような環境を整え支援する。			
4) 維持会員増強運動を実施する。			
部門	アクションプラン	評価	理由
本部事務局	1) 維持会員の募集を年2回、計画的に実施する。 2) もりおかワイズメンズクラブのメンバー増強に協力する。2名の新入会を目指す。	B C	1) 年2回の募集は行ったが、意図を持った計画的な募集ではなかった。 2) 1名の新入会があった。
ぷらいむ・たいむ本町校	1) 本町サッカースクールへ5名の参加を目指す ①年3回(学期毎)サッカースクールの案内を配布する。 ②体験参加の申し出を受けた際、学童で仲の良い友達にも参加を促す 2) 水曜水泳教室へ4名の参加を目指す ①年3回(学期毎)水泳教室の案内を配布する。 ②体験参加の申し出を受けた際、学童で仲の良い友達にも参加を促す 3) 習字教室へ8名の参加を目指す ①年3回(学期毎)習字教室の案内を配布する ②長期休暇に学童のプログラムとして各1回習字を行う	B B C D A B C C D	1) 2019年度新たに2名の新規入会者がいた。 ①I期の配布はできなかったが、II期以降の配布ができた。 ②それぞれ新規参加者の仲の良い子にも声を掛けたものの、反応がいまいちだった。 2) 水曜水泳教室には新規参加者はいなかったが、木曜水泳教室に新規参加者がいた。 ①案内の配布はできた。 ②木曜水泳教室は、友達関係での新規参加へつながった。 3) 5名の参加にとどまった。年度途中の退会者も多く、指導内容等について再度考える必要がある。 ①III期に学童と本町校近隣学童施設等への配布を行った。 ②講師との調整がうまくいかず、行うことができなかった。
ぷらいむ・たいむ向中野校	1) 中学生と関わる機会をつくる。 ①近隣の高校との協働の機会を調査する。	D D	1) 1度行った。 ① 10/24 小川がスコール高等学校の先生と話をした。後に国際協力街頭募金活動への高校生8名参加につながったが、向中野校としての協働とは内容が違ったものとなった。向中野校としての協働は難しいのではないかと。
ぷらいむ・たいむ盛南校	3) YMCAのプログラムに参加する高学年の小2) 中学、高校生と大学生ボランティアが交流でき学生がリーダーシップを発揮できるような環境を整え支援する。 ①冬休みの特別プログラムを高学年中心に企画・実行してもらう。	A	高学年中心に大掃除プログラムを行った。活動中も5年生の中心にまわって活動を行っていた。
サッカースクール	1) ボランティアリーダーに対して、サッカー未経験でも参加しやすいプログラムであることを呼びかけ、ボランティアリーダーが2名以上継続的に参加することの出来る環境を整える。 ①ボランティアリーダーの送迎時間と場所を見える化し、年3回(学期毎)見直し提示する。 2) サッカーの活動に継続的に参加しているボランティアリーダーに対し、審判や指導者の資格を取得できるよう、支援する体制を作る。 ①年1回の資格取得講習会をボランティアリーダーに案内する。 3) ベストキッズの子どもたちで地域奉仕活動を年3回行う。	A C A A C	1) 各スクール2名以上のリーダーの参加は見られた。 ①一度作成したが、利用が見られなかったため、見直していない。 2) 体制は整っている。 ①リーダー会長を通してリーダーへの告知を行っている。 3) 年に1度しか行っていない。

水泳教室	1) 各水泳教室で、大学生ボランティアリーダーの継続参加者 4 名を目指す。 ①年に 2 回大学生ボランティアリーダーのトレーニングを行う。(全てのリーダー対象) 2) 国際協力街頭募金活動に 5 名の参加を目指す。 ①10 月に水泳会員用の国際協力募金活動のボランティア募集案内を作成し、配布する。	A A E E	1) 各水泳教室で 4 名のボランティアリーダーの参加があった。 ①すぐに活動に活かすことができ、レッスン中の疑問点や安全面の確認も行うことができた。 2) 1 名の参加のであったため。 ①行っていない。担当は決まっていたが、細かいスケジュールが決まっていなかった。
体育教室	1) 国際協力街頭募金活動に 3 名の参加を目指す。 ①10 月に体育会員用の国際協力募金活動のボランティア募集案内を作成し、配布する。 ②10 月に国際協力についての話をする時間を設ける。	C D C	1) 1 名の参加があった。 ①会員用に作成は行わず、国際協力の案内を配布した。 ②11 月 9 日に小川が行った。
野外活動	1) 中高生がボランティアとして参加できる体制を作り、年間 5 人を目指す。 ①卒業生にボランティアリーダー募集の案内を送る。 ②スコール高校に案内を送る。	E E E	大学生リーダーが多いため、中高生の募集は行わないこととした。 行っていない。 行っていない。
被災地復興支援事業 KPI	1) 宮古サッカースクール在籍する子どもたちを対象としたボランティア体験のプログラムを開催する。	B	宮古夏祭りでの販売の募集のみとなった。
サンデースクール	1) 新たにサンデーに継続して参加するリーダーを 8 名以上増やす。 ① 新一年生を中心に、サンデーへの参加を声掛けしていく。 ②リーダーが主体となり実際にサンデースクールに参加する中で、子どもたちと関わる楽しさややりがいを感じる事ができるような環境を作る。	C C C	1) 大学 1 年生リーダーの継続的な参加者は 3 名。 ① 各大学担当のリーダーを通して参加を呼びかけた。 ② 活動内容の検討・振り返り・参加を通して担当リーダーが主体となって取り組んでいる。

事業計画 2 (プログラムに参加する人間を増やす)			
盛岡 YMCA が行うプログラムを充実させ、参加した人びとの満足度を上げる。このことにより、良い評判を作り、YMCA のプログラムに参加する人を増やす。			
全体 アクションプラン			
1) 広報の方針を定め、計画を立案し、タイムリーに分かりやすく、効果的な広報展開を行う。 2) ネット受付を導入する。 3) ぶらいむ・たいむ在籍者のサッカー、水泳、キャンプ参加率を向上させる。 4) PDCA を有効に活用し、盛岡 YMCA が行うプログラムの内容を向上させる。 5) プログラム参加者に対するアンケートを実施する。			
本部事務局	1) 各プログラムが戦略的、計画的に広報活動ができるような工程表を作成し、関わるスタッフが意識的に広報活動ができる環境を整備する。 2) ブランディングに関するスタッフ、リーダー対象の研修会を 2 回開催する。 3) ウィンターキャンプよりネット受付を開始する。 4) 問い合わせから申込みまでミスのない事務体制を確立する。	B C E B	広報会議を開き、計画的なアクションはできた。 ポジティブネットの職員研修が開催できた。 20 年度サマーキャンプからに延期受付ミーティングを開ければ理想的だった。
ぶらいむ・たいむ本町校	1) 周りの人たちの良いところを見つけたときに書き込むことの出来る掲示板を用意する	E	1) センターミーティング等で話題には上ったものの、具体的な取り組みにまでは進まなかった。
ぶらいむ・たいむ前潟校	1) ぶらいむ・たいむ前潟校の参加者 45 名を目指す。 ① 5 月・9 月・1 月に土淵・大新両小学校へ児童募集のチラシを配布する。 2) 長期休校中のチャイルドケア参加者 5 名を目指す。 ① 6 月・11 月・2 月に近隣小学校へチラシを配布する。 3) 土淵サッカースクールへの参加者 10 名を目指す。 ① 4 月・9 月にチラシを学童内で配布する。 4) 水曜水泳コースへの参加者 10 名を目指す。 ① 5 月・8 月にチラシを学童内で配布する。 5) 木曜水泳コースへの参加者 8 名を目指す。 ① 5 月・8 月にチラシを学童内で配布する。 6) 体育教室への参加者 2 名を目指す。 ① 5 月・9 月にチラシを学童内で配布する。 7) 野外活動会員 5 名を目指す。 ① 学期毎にチラシを学童内で配布する。 8) サマーキャンプへの参加者 10 名を目指す。 ① 6 月にチラシを学童内で配布する。	D C D E D B D B C B E E A A A A	最終的に 41 名にとどまった。 1 月は新年度生受け入れに重点を。 延べ人数 1 名の参加にとどまった。 6 月 11 月のみの配布となった。 8 名にとどまった。 配布した。内容の工夫が必要。 6 名にとどまった。 配布と掲示を行った。 5 名にとどまった。 配布と掲示を行った。 可能性が低いため行わない。 可能性が低いため行わない。 8 名が参加した。

	<p>① 学童内でキャンプ参加者掲示と写真掲示を行なう。</p> <p>9) ウィンターキャンプへの参加者 12 名を目指す。</p> <p>① 11 月にチラシを学童内で配布する。</p> <p>② 学童内でキャンプ参加者掲示と写真掲示を行なう。</p> <p>10) お泊り会への参加者 40 名を目指す。</p> <p>① 保護者へ第 1 報(9 月)・第 2 報(10 月)として案内を配布する。</p> <p>② 前潟校施設内に過去のお泊り会の写真を掲示し、アピールする。</p>	<p>E</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>D</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>子どもと掲示用チラシを作成した。</p> <p>18 名が参加した。</p> <p>子ども同士の呼びかけを行った。</p> <p>写真掲示は行わなかった。</p> <p>13 名が参加した。</p> <p>配布した。</p> <p>子どもたちと作成し掲示した。</p> <p>27 名にとどまった。</p> <p>配布した。</p> <p>掲示し、子ども同士の呼びかけも行った。</p>
ぶらいむ・たいむ 向中野校	<p>1) 英語教室へ、15 名の参加を目指す。</p> <p>① 学期毎に英会話教室の案内を全児童に配布する。</p> <p>② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>2) 月曜日水泳教室へ、20 名の参加を目指す。</p> <p>① 学期毎に水泳教室の案内を全児童に配布する。</p> <p>② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>3) 金曜日水泳教室へ、15 名の参加を目指す。</p> <p>① 学期毎に水泳教室の案内を全児童に配布する。</p> <p>② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>4) 向中野サッカーへ、10 名の参加を目指す。</p> <p>① ウエルネスと連携し、学童の子ども対象のサッカースクール無料体験会を 3 回実施する。</p> <p>② 学期毎にサッカースクールの案内を全児童に配布する。</p> <p>③ 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>5) 野外活動へ、15 名の登録を目指す。</p> <p>① 活動時期ごとに参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>② 参加した子どもたちにインタビューをし、その内容を分かりやすく掲示する。</p> <p>6) サマーキャンプへ、20 名の参加を目指す。</p> <p>① 6 月、11 月の学童ニュースにキャンプ特集を盛り込む。</p> <p>② プログラム毎に参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>7) ウィンタープログラムへ、20 名の参加を目指す。</p> <p>① 6 月、11 月の学童ニュースにキャンプ特集を盛り込む。</p> <p>② プログラム毎に参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p>	<p>C</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>D</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>D</p> <p>C</p> <p>E</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>D</p> <p>C</p> <p>C</p>	<p>1) 向中野校より 8 名が参加。</p> <p>① 1/31 に配布完了。</p> <p>② 掲示している。</p> <p>2) 向中野校より 9 名が参加。</p> <p>① 1/31 に配布完了。</p> <p>② 掲示している。</p> <p>3) 向中野校より、16 名が参加。</p> <p>① 1/31 配布完了。</p> <p>② 掲示している。</p> <p>4) 向中野校より、9 名参加。</p> <p>① 1/23 に 1 回のみ実施できた。14 名参加の入会者 3 名。向中野スクール自体人数が飽和しているため。1 回のみ体験会実施となった。</p> <p>② 配布したが、3 期は行っていない。コロナのため。</p> <p>③ 掲示している。</p> <p>5) 向中野校より 4 名の登録。</p> <p>① 11 月活動より行っている。</p> <p>② できていない。学童に参加しつづけることは厳しい。</p> <p>6) 向中野校より、18 名参加。</p> <p>① 作成し保護者・学校へ配布した。</p> <p>② 作成・掲示した。</p> <p>7) 向中野校より 4 名参加。</p> <p>① 作成し保護者・学校へ配布した。</p> <p>② 作成・掲示した。</p>
ぶらいむ・たいむ 盛南校	<p>1) 英会話教室へ 5 名の参加を目指す。</p> <p>① 学期毎に英会話教室の案内を全児童に配布する。</p> <p>② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>③ 年に 2 回、長期休暇中に無料体験を盛南センターで行う。</p> <p>2) 月曜日水泳教室へ 10 名、金曜日水泳教室へ 5 名の参加を目指す。</p> <p>① 学期毎に水泳教室の案内を全児童に配布する。</p> <p>② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>3) 向中野サッカースクールへ 5 名の参加を目指す。</p> <p>① 学期毎にサッカースクールの案内を全児童に配布する。</p> <p>② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>③ 年 3 回の無料体験会を実施する。</p> <p>4) 野外活動へ 10 名の登録を目指す。</p> <p>① 活動の案内を施設内外に分かり易く掲示する。</p> <p>② 活動時期ごとに参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>5) 夏のキャンプへ 10 名の参加者を目指す。</p> <p>① 6 月の学童ニュースにキャンプ特集を盛り込む。</p> <p>② プログラム毎に参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p> <p>③ キャンプに参加するリーダーが子どもたちにわかるように掲示する。</p> <p>6) ウィンタープログラムへ 10 名の参加者を目指す。</p> <p>① 11 月の学童ニュースにキャンプ特集を盛り込む。</p> <p>② プログラム毎に参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に</p>	<p>E</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>E</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>D</p> <p>B</p> <p>E</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>D</p> <p>E</p>	<p>1) 6 月 1 名入会した後、入会者はいない。</p> <p>①案内を見ての入会者はいなかった。</p> <p>②学童内に掲示を行った。</p> <p>③10 月に無料体験会を行ったが、それをきっかけとした入会者はいなかった。</p> <p>2) 盛南校から、月曜日水泳が 8 人、金曜日水泳が 3 人参加している。</p> <p>①水泳担当が作成したチラシを配布した。</p> <p>②学童内に掲示を行った。</p> <p>3) 盛南校から、6 名が参加している。</p> <p>①サッカー担当が作成したチラシを配布した。</p> <p>②学童内に掲示を行った。</p> <p>③一度しか行っていないが、それをきっかけに 1 名の参加があった。</p> <p>4) 盛南校から 10 名の登録があった。</p> <p>①玄関、1 階大部屋にポスターの掲示を行った。</p>

	<p>掲示する。 ③プログラムに参加するリーダーを掲示する。</p>	<p>E E</p>	<p>②段取りを組まず行っていたため、掲示できない活動があった。 5) 盛南校から 8 名参加した。 ①学童ニュースの発行できていない。 ②玄関に掲示を行った。 ③玄関に掲示を行った。 6) 盛南校からは、4 名参加した。 ①学童ニュースを発行したが、特集を盛り込めていない。 ②担当者間で、掲示についてのヴィジョンの共有を行っておらず、掲示できなかった。 ③担当者間で、掲示についてのヴィジョンの共有を行っておらず、掲示できなかった。</p>
生涯学習	<p>1) 英会話教室に参加するメンバーを 20 名に増やす ① 案内を作成し年 3 回(学期毎)、学童参加者へ配布する。 ② ハロウィンやクリスマスなどの季節行事を行い、オープンで参加者を募る。 ③ 写真を定期的に撮影し、学童施設内に掲示する。 ④ 対象地域の公共施設で年 3 回(学期毎)ポスターの掲示を行う。 2) 習字教室に参加するメンバーを 10 名に増やす。 ① 案内を作成し(年 3 回(学期毎)、学童参加者へ配布する。 ② 長期休暇に学童行事で習字に触れる機会を持つ。 ③ 写真を定期的に撮影し、学童施設内に掲示する。 ④ 対象地域の公共施設で年 3 回(学期毎)ポスターの掲示を行う。</p>	<p>C A A C B C C C D B</p>	<p>1)11 名の参加にとどまった。 ①向中野校と盛南校で配布を行ったが、反応は今一つだった。 ②ハロウィンイベントをオープンで行い、新規参加へつながった。2020 年度はクリスマスイベントも行えるよう、早めに準備を進める。 ③学童の体制との兼ね合いで、写真を撮りに行く機会を作ることが難しかった。 ④近隣公民館等への掲示を行うほか、学童施設への掲示依頼を行った。 2)5 名の参加にとどまった。年度途中の退会者も多く、指導内容等改めて整理が必要。 ①Ⅲ期に学童と本町校近隣学童施設等への配布を行った。 ②講師との調整がうまくいかず、行うことができなかった。 ③誰がいつ行うのか明確になっておらず、行うことができなかった。 ④学期毎の掲示は行うことができなかった。</p>
サッカー スクール	<p>1) 土淵サッカースクールへ 15 名の参加を目指す。 ① 対象地域の小学校、公共施設へポスター掲示を年 3 回(学期毎)依頼する。 2) 高松サッカースクールへ 15 名の参加を目指す。 ① 対象地域の小学校、公共施設へポスター掲示を年 3 回(学期毎)依頼する。 3) 向中野サッカースクールへ 25 名の参加を目指す。 ① 対象地域の小学校、公共施設へポスター掲示を年 3 回(学期毎)依頼する。 4) 篠木サッカースクールへ 15 名の参加を目指す。 ① 対象地域の小学校、公共施設へポスター掲示を年 3 回(学期毎)依頼する。 5) 本町幼児サッカースクールへ 10 名の参加を目指す。 ① 対象地域の幼稚園保育所、公共施設へポスター掲示を年 3 回(学期毎)依頼する。 6) 本町小学生サッカースクールへ 15 名の参加を目指す。 ① 対象地域の小学校、公共施設へポスター掲示を年 3 回(学期毎)依頼する。 7) ベストキッズへ 30 名の参加を目指す。 ① 各サッカースクールで年 3 回(学期毎)案内を配布する。 ② 各サッカースクールに参加している 4 年生以下の子どもたちへ、年 2 回の交流試合(対外試合)の参加を呼び掛ける。 8) サッカー大会に一般参加を呼び掛ける。 9) スタンプカードをより達成しやすい目標となるよう、見直し作成を行う。 10) サッカースクールの新聞を年 3 回(学期毎)作成し、各サッカースクールメンバ</p>	<p>D D B E A B A A A E A B D E A D A B</p>	<p>1)一般からの参加が 1 名となった。 ぷらいむ・たいむ前湯校へのポスター掲示は行なった。 2)12 名の参加となった 実施していない 3)36 名の参加となった ぷらいむ・たいむ向中野校、盛南校へのポスター掲示は行なった。 4)16 名の参加となった。 近隣学童への掲載依頼も依頼し、掲載してもらった。 5)10 名の参加となった。 実施していない。 6)19 名の参加となった ぷらいむ・たいむ本町校へのポスター掲載は行なった。 7)21 名の参加となった。 ①実施していない ②呼びかけ、累計 18 名の参加があった。 8)呼びかけたが、サッカー会員以外は 3 名の参加となった。 9)10 回で 1 枚という達成しやすいものとなった。 10)Ⅰ期、Ⅱ期は作成したが、Ⅲ期</p>

	一と、YMCAの各学童、近隣施設へ配布し周知する。		は作成できなかった。
水泳教室	<p>1) 月曜水泳教室へ35名の参加を目指す。</p> <p>① 対象地域へ年2回広告掲示を行う。</p> <p>2) 水曜水泳教室へ幼児10名、小学生35名の参加を目指す。</p> <p>① 対象地域へ年2回広告掲示を行う。</p> <p>3) 木曜水泳教室へ25名の参加を目指す。</p> <p>① 対象地域へ年2回広告掲示を行う。</p> <p>4) 金曜水泳教室へ35名の参加を目指す。</p> <p>① 対象地域へ年2回広告掲示を行う。</p>	E C E C C C B C	<p>1) 18名の参加。4月から5名減った。</p> <p>①1回のみ実施。</p> <p>2) 幼児7名。小学生20名。4月から幼児1名増え、小学生6名減った。</p> <p>①1回のみ実施。</p> <p>3) 20名の参加。4月から8名増えた。</p> <p>①1回のみ実施。</p> <p>4) 34名の参加。4月から10名増えた。</p> <p>①1回のみ実施。</p>
体育教室	<p>1) 幼児体育教室へ5名の参加を目指す。</p> <p>① 対象地域へ年2回広告掲示を行う。</p> <p>② くろいしの保育園の出張体育教室を実施。</p> <p>2) 小学生体育教室へ5名の参加を目指す。</p> <p>① 対象地域へ年2回広告掲示を行う。</p> <p>② 本町学童児童対象に長期休暇の無料体験会を2回行う。</p>	D C B A E C	<p>1) 新規で2名参加した。その後増加はない。</p> <p>①11月に送迎ルート付近の幼稚園、保育園に案内の配布、置きチラシを依頼。年1回。</p> <p>②10月25日、11月5日の2回実施。</p> <p>2) 7名の参加となり、新規入会は3名であった。</p> <p>①行っていない。本町学童の子に対象を絞って告知を行うこととした。</p> <p>②1月10日に1度のみ開催。2名の参加があり、そのうち1名がその後入会となった。</p>
野外教育	<p>1) 一般会員の50人登録を目指す。</p> <p>① 各学校に毎月チラシを配布</p> <p>② 一般施設20店舗にポスター掲示。</p> <p>③ 会員有効期間は登録した月から1年間とする。</p> <p>2) 会員の40人登録を目指す。</p> <p>① 各センターから10人ずつを目標に集めていく。</p> <p>3) サマーキャンプ会員参加100人を目指す。</p> <p>① 6月に会員に早期申し込みチラシ配布。</p> <p>② 6月から学童用ポスター掲示。</p> <p>③ 7月に各学童で各キャンプに参加するリーダー、メンバーをより目に付くように掲示。</p> <p>4) サマーキャンプ一般参加45人を目指す。</p> <p>① 6月に学校へチラシ配布。</p> <p>② 6月に一般施設20店舗にポスター掲示。</p> <p>5) ウィンタープログラム会員参加75人を目指す。</p> <p>① 10月に会員に早期申し込みチラシ配布。</p> <p>② 10月から学童用ポスター掲示。</p> <p>③ 11月に各学童で各キャンプに参加するリーダー、メンバーをより目に付くように掲示。</p> <p>6) ウィンタープログラム一般参加30人を目指す。</p> <p>① 10月に学校へチラシ配布。</p> <p>② 10月に一般施設20店舗にポスター掲示。</p>	B C D A A C A E D A D E D E A B D	<p>1) 48人の登録。</p> <p>①12月まで1か月に一度の配布。</p> <p>②6店舗のみ。</p> <p>③実施した。</p> <p>2) 45名の登録。</p> <p>①前潟9名、向中野8名、盛南9名、本町12名。</p> <p>3) 107名の参加。</p> <p>①行っていない</p> <p>②チラシが遅れ7月から実施。</p> <p>③実施した。</p> <p>4) 56名の参加。</p> <p>①チラシが遅れ7月から配布。</p> <p>②実施していない。</p> <p>5) 56名の参加。</p> <p>①実施できなかった</p> <p>②実施した</p> <p>③行なったが、統一されたものがなく、それぞれに任せっきりとなってしまった。</p> <p>6) 25名の参加</p> <p>①実施した。</p> <p>②実施できなかった。</p>
被災地復興支援事業	<p>1) 宮古サッカースクールに参加する学生ボランティアを増やす。</p> <p>2) 野外活動募集にチラシのデザインを外注し、内容がよりわかりやすいように工夫する。</p>	B E	<p>1) 継続して参加するボランティアはいたが、増えなかった。</p> <p>2) 夏キャンプ以外の活動を行っていない。</p>
サンデースクール	<p>1) 参加するメンバーの人数を毎回20名以上にする。</p> <p>① サッカースクール、水泳、学童など各活動において、リーダーが子どもたちと仲良くなり、そこからサンデースクールに勧誘する。</p> <p>② 各活動において、新1年生を中心に活動を押ししていく。</p> <p>2) 効果的な活動の告知を行う。</p> <p>① チラシにサンデーに参加しているリーダーのコメントや、写真を入れてサンデーの活動のイメージが伝わりやすいように宣伝する。</p> <p>② 試作品や実物を各センターの学童(ぶらいむ・たいむ)に置かせていただくことで、サンデーの活動のイメージが伝わりやすいように宣伝する。</p> <p>3) 参加者にとって魅力的な活動にする。</p> <p>① 沢山のリーダーに会い、遊べる部分を売りにして参加を促す。</p>	C B B D C C B	<p>1) 4月9名、5月9名、6月31名、10月19名、11月13名、2月20名、3月中止。20名を達成できていない月がある。</p> <p>① 各活動に参加するリーダーを中心に行った。</p> <p>② 各大学の担当リーダーを中心に行った。</p> <p>2) ①②の内容に取り組んだが、2月は、準備不足のためできなかった。</p> <p>① 2月活動以外は行っている。</p>

	② 試作やミーティングを適宜行うことにより、活動の内容面を充実させる。	C	② 行った。 3) 意識できたが、数値化できない。 ① 意識し各リーダー・担当スタッフが呼びかけを行った。 ② 適宜行った。
--	-------------------------------------	---	---

事業計画3 (盛岡 YMCA と協働する団体を増やす)

国連が提唱する持続可能な社会開発のための 17 のグローバル目標 SDGs について盛岡 YMCA として積極的に取り組むとともに、地域の諸団体とつながりともに協力して地域社会での浸透、推進を図る。

全体アクションプラン

- 1) 岩手県における SDGs の推進役として、地域の他団体と協働してその普及に努める。
- 2) 盛岡 YMCA の関係者に SDGs を浸透させる。
- 3) 台湾の YMCA との交流を推進する。

本部事務局	1) 岩手の食に関する関係諸団体との交流の機会を 2 回以上開催する。 2) 盛岡 YMCA ニュースを関係諸団体に配布する。 3) 県内福祉関係の団体を訪問する機会を 2 回以上開催する。 4) 市内、小、中、高校を訪問し、青少年現状を調査する。 5) 県観光課、市内旅行者を訪問し、岩手県と台湾との交流を調査する。	A C E E E	積極的な交流ができた。(含リーダー) 配布しきれず残部が出た。 訪問出来なかった。 訪問出来なかった。 訪問出来なかった。
サッカースクール	1) ベストキッズメンバーの小学校卒業後の進路として、ジュニアユースを持つクラブチームを紹介できるよう、連携を図る。	D	連絡を取れるようにはしていたものの、紹介まで至らなかった。
野外活動	1) 他 YMCA キャンプへの大学生ボランティアリーダー参加を計画的に進める。 2) フードバンク、生協との連携を試みる。	B E	予算を含めた計画ではなかった。 行っていない。
被災地復興支援事業	1) 閉伊川大学校、東京海洋大学と連携して自然学習のプログラムを開催する。	E	天候不良により開催中止となった。

事業計画4 (YMCA が社会的に弱くされている人びとに寄り添う機会を増やす)

互いを認め合い、心を開き、分かち合い、すべての人に開かれる YMCA としてポジティブネットのある社会の実現に努める。特に社会的に弱くされている人びとや孤立している人びとに寄り添う活動を諸団体と連携して取り組む。

全体 アクションプラン

- 1) いじめのない社会を目指すピンクシャツデーの開催を他団体にも呼びかけ、計画的に開催する。
- 2) 課題を抱える中学、高校生の居場所づくりを行う。
- 3) 参加費で障がいのある子どもたちを支援するとともに、“障がい”への社会的な理解と関心を高めることを目的とした駅伝大会「盛岡 YMCA インターナショナル・チャリティーランの参加者、協力者を増やすとともに、この大会を地域社会により積極的にアピールする。
- 4) すべての人びとが国籍・民族・宗教のちがいに問わず、平和に生き生きと暮らせる社会の実現を願って、国際協力募金活動を行う。YMCA の行う国際協力募金の賛同者を増やす。
- 5) 岩手県宮古市で行っている被災地復興支援活動をより地域の諸団体と協働して継続する。また、ユースを中心とした「ふくしま」についての学びを継続する。
- 6) 盛岡 YMCA が行うプログラムに経済的理由により、参加できない子どもたちを支援する「盛岡 YMCA ポジティブネットこども募金」を創設する。
- 7) こども一人ひとりの発達特性や生活課題を理解し、個々に応じた支援の充実ができるよう、児童発達支援事業や放課後等デイサービスなどの新規事業やプログラムの調査、準備を開始する。

本部事務局	1) ふくしまスタディツアーを 9 月に開催する。15 名の参加を目指す。 2) 12 月までに「盛岡 YMCA ポジティブネットこども募金」の具体案を常議員会に提出する。 3) 9 月末までに児童発達支援事業等社会課題の解決に向けた新規事業、プログラムの調査を行い、企画案を常議員会に提案する。	B E D	とちぎ Y と協働で 13 の参加。 具体案を示せなかった。 調査は行ったが企画はできなかった。
ぷらいむ・たいむ本町校	1) ピンクシャツデーに向け、いじめのない社会について考える機会を年 3 回持つ 2) 盛岡 YMCA インターナショナル・チャリティーランに 2 チームの参加を目指す ① チャリティーランの案内を第一報、第二報として配布し、運動について理解をいただく。 ② 障がいを持っている人への理解を促す為に、障がいについて考える機会を夏休みに 1 度持つ。	B A A A	1) 事前の取り組みとして、学年単位に分かれ、いじめについて話し合う機会を設けた。当日は、絵本の読み聞かせから、それぞれが感じたことをまとめる機会を設けた。 2) 3 チームの参加となった。 ① 参加案内を第一報として、報告を第二報として配布した。 ② 絵本を通して、障がいについて考える機会を設けた。
ぷらいむ・たいむ前潟校	1) チャリティーランへの参加者 15 名を目指す。 ① 保護者へ第 1 報・第 2 報として案内を配布する。 ② 障がい者について考える機会を 1 か月前から設ける。 2) ピンクシャツデーに向けての取り組みとして考える機会を 2 週間前から設ける。	A A A A	2 チーム 17 名の申込み。 呼びかけに重点を置いた。 体験型ゲームと話し合いを行った。 グループワークを行った。
ぷらいむ・	1) ピンクシャツデーを通して、子ども・保護者がいじめについて考え	B	1) 子どもたち全体に話す機会を 1

<p>たいむ 向中野校</p>	<p>る機会を2回もつ。 2) 国際協力街頭募金活動に、参加者 10 名を目指す。募金協力者目標 20 名(家族)。 ① 10月に国際協力募金についてまとめたものを掲示する。 ② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。 3) チャリティーランに2チーム出場する。 ① 全体の案内の他にセンター単独で案内を2回作成し配布する。 ② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。 4) チャリティーバザー当日来場者 150 名を目指す。 ① 町内会の回覧板に案内をはさんでもらう。 ② 当日の1週間前(10/7)から、バザー開催告知の外観装飾を行う。 ③ YMCAの公用車を使ってバザーの告知をする。 ④ チャリティーラン委員会と連携し、バザーの告知の案内の配布を、参加者への資料と共に配布する。 ⑤ YMCA ニュースを使って、バザー開催の告知・協力の依頼を行う。 5) チャリティーバザー当日ボランティアに子ども20名参加を目指す。 ① 9月の学童ニュースにチャリティーバザーの記事を盛り込む。 ② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。 6) チャリティーバザー当日運営ボランティアに保護者の参画を促す。 ① 9月の学童ニュースに保護者の運営ボランティア募集の欄を設ける。</p>	<p>D B B A A A C A A E E B D B B B B</p>	<p>回、その後、取り組みを内容を実施している。「友だちの良いところを見つけよう」という取り組みのため継続的に行えた。なお、4月に入った現在も続いている。 2) 街頭募金に4名参加。募金協力者は集計していないが、尾形把握している限り1名いた。 ① 掲示した。 ② 掲示した。 3) 2チーム(17名)出場した。 ① 配布した。 ② 作成・掲示した。 4) 約130名の参加を把握している。 ① 行った。 ② 行った。 ③ 検討後、行わない判断を下した。 ④ チャリティーの趣旨がブレる懸念があるため、行わない判断を下した。 ⑤ 行った。 5) 向中野校より9名参加。20名は目標として立てたがバザーのキャパ的に多い。(他の活動からのボランティアの方もいるため。) ① 盛り込んだ。 ② 行った。 6) 1名参加。 ① 設けた。</p>
<p>ぷらいむ・ たいむ 盛南校</p>	<p>1) ピンクシャツデーを通して子ども・保護者がいじめについて考える機会を2回つくる。 ① 子ども達と保護者を対象に、いじめについてのアンケートをとる。 2) 国際協力街頭募金活動へ5名の参加者を目指す。募金協力者10名(家族) ① 10月に施設内外に国際協力募金についてまとめたものを掲示する。 ② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。 3) チャリティーランに1チーム出場する。 ① 全体の案内の他にセンター単独の案内を2回作成し配布する。 ② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。 4) チャリティーバザー当日運営ボランティアへ5名の参加を目指す。 ① 9月の学童ニュースにチャリティーバザーの記事を盛り込む。 ② 参加者名簿を作成し、子ども達が見える場所に掲示する。</p>	<p>D E C B B A E A B C E</p>	<p>1) 子どもたちには、その週と当日にいじめについて考える機会を設けたが、保護者に対して活動を行っていない。 ① アンケート形式の活動を行っていない。 2) 盛南校からボランティア参加者が4名、募金協力は2家族があった。 ① 学童内に掲示を行った。 ② 学童内に掲示を行った。 3) 盛南校から、2チームの参加があった。 ① だれが作成するかがあやふやになってしまい、作成できていない。 ② 学童内に掲示を行った。 4) 盛南校から3名参加した。 ① 作成したが、それを見て参加しかが不明。 ② 担当が誰かが、あやふやになり、行っていない。</p>
<p>生涯学習 事業</p>	<p>1) こかげ英会話教室へピンクシャツデーの取り組みへの賛同を働きかける ① 2月に直接案内を持っていき説明を行う 2) 英会話教室、習字教室に参加している学童以外の子どもたちへYMCA運動の理解を図る ① 国際協力募金の案内を配布する。 ② ピンクシャツデーの案内を配布する。 ③ チャリティーバザーの案内を配布する。</p>	<p>A A B A A A</p>	<p>1) 直接伺い、趣旨の説明賛同の呼びかけを行った。 ① 生涯学習とピンクシャツデーの担当で、直接伺い運動の説明を行った。 2) 案内の配布は都度行ったが、運動の理解については、さほど進んでいないため、保護者とのコミュニケーションを図る。 ① 案内の配布は行った。 ② 案内の配布は行った。 ③ 案内の配布は行った。</p>
<p>サッカー スクール</p>	<p>1) 国際協力街頭募金活動に15名の参加を目指す。 ① 第一報、第二報として国際協力募金の意義について丁寧に案内する。</p>	<p>C C</p>	<p>1) 14名の参加となったが、学童・ベストのメンバーであり、純粋にサッカースクールからの参加はなかつ</p>

	2) インターナショナル・チャリティーランへ、ベストキッズから2チーム、サッカースクールから1チーム、保護者から1チームの参加をいただく。 ① 第一報、第二報としてインターナショナル・チャリティーランの意義について丁寧に案内する。	A A	た。 ①案内はしたが、参加が見られなかったことから、不十分であったと考える。 2)サッカースクールからのチーム参加はなかったが、保護者チームとして1チーム参加をいただいた。 ①ベストキッズには伝わっていた。
水泳教室	1) チャリティーランへ1チーム出場する。 ① II期開校日に、水泳会員用のチャリティーラン参加募集案内を作成し、配布する。 2) 各水泳教室でピンクシャツデーの取り組みを3回ずつ行う。	E A B	1) 出場なし。チラシ配布時期、声掛け不足。 ①配布をした。 2) 3回だと忘れてしまう子がいることを考え、2回ずつ行った。
体育教室	1) チャリティーランへ1チーム出場する。 ① II期開校日に、体育教室会員用のチャリティーラン参加募集案内を作成し、配布する。 2) 体育教室でピンクシャツデーの取り組みを3回行う。	A E D	1) 会員の1家族が参加した。 ①行えていない。 2) 全体で話はしたが、3回の取り組みは行えていない。
野外活動	1) 病児キャンプ実施に向けて子ども病院と連携して取り組む。	E	できなかった。

方針II YMCAをより深く、長く経験してもらう

プログラムの参加者ならびにその家族に対して盛岡YMCAが伴走者としてより深く、長く関わっていくことができるように、盛岡YMCAの組織としての伴走力を強化する。

事業計画5 (より深く関わる)			
盛岡YMCAに関わる人びとの間のコミュニケーションの質を高める。			
全体 アクションプラン			
1) 職員間、ボランティアリーダー間、職員とリーダー間のコミュニケーションの質を高める。 2) 効果的な会議、ミーティングの進め方を学び、それぞれのセクションにおいて実践する。			
本部事務局	1) 会議の持ち方、すすめ方の簡単なパンフレットを作成し、研修を行う。 2) 年3回、ブランディング、KPIの評価についての研修会を開催する。	E D	作成できなかった。 春の1回にとどまった。
ぶら い む・たい む 本町校	1) 月に1度、センタースタッフとパート職員が集いセンターミーティングを行う。 2) 申し送りノートを用いて、センタースタッフとパート職員で情報のシェアを毎日行う。	A A	1) 毎月センターミーティングを行い、学童としての方向付け等について確認を行った。 2) ノートの記入のみでなく、日々の保育前とパートタイマーの退勤時に、申し送りを行い、生活の様子を共有した。
ぶら い む・たい む 前潟校	1) 職員・パートによるセンターミーティングを月に1度行う。 2) 職員による振り返りミーティングを学期ごとに行なう。 3) 日の子どもの様子等を申し送りノートに記載し、毎日ファイリングを行なう。	B E B	1) 行ったが活発までとは言えない。 2) センター長がまとめるため行わないこととした。 3) 毎日記載はしていたが、出勤者全員ではなかった。
ぶら い む・たい む 向中野校	1) センターミーティング(パート職員含む)を月に1度行う。 2) 向中野小学校に、学童のニュース、YMCAニュースを毎月持って行く。 3) 毎日引き継ぎを行い、その共有を図る。	A B B	1) 行った。 2) 学童ニュースを月一発行できておらず、その分持っていけない。 3) 行っている。
ぶら い む・たい む 盛南校	1) センターミーティング(パート職員含む)を月に1度開催する。 2) 本宮・向中野小学校に毎月YMCAニュース、学童のニュースを持って行く。 3) 毎日引継ぎを行い、その共有を図る。 4) 地域行事(清掃活動等)に積極的に参加し、地域住民とのコミュニケーションを図る。	A C A B	1) 月に一度センターミーティングを行えている。 2) 向中野小学校には行えているが本宮小学校に行えていない。 3) 毎日引継ぎを行えた。 4) 清掃活動、町内会の夏祭りの準備の手伝いを行った。
生涯学習 事業	1) こかげ英会話教室講師と情報の共有を図る ①年3回情報交換の場を設ける。 2) 習字教室講師と情報の共有を図る ①年3回情報交換の場を設ける。	A A D D	1) 必要に応じ都度情報の共有を行った。 ①年3回に限らず、必要に応じ都度お会いしての情報交換と、電話での情報交換を行った。 2) 様子の確認等を行うことはできたが、回数が少なかった。

			①時間が合わず、年3回の情報交換を行うことができなかった。
サッカー スクール	1) 隔週でサッカー事業担当者会を行う。 2) サッカーの指導基準を定め、練習メニューの作成の相談や、意見交換を行い、他スクールとの連携を図る。 3) 学期毎に、各サッカースクールディレクターと参加しているボランティアリーダーで振り返りを行い、情報の共有を図る機会を設ける。	B A B	10月から毎月開催となった。 指導基準を定め、練習メニューの相談も行っていった。 各ディレクターにやり方は任せる形となったが、実施した。
水泳教室	1) 月に一度水泳教室担当者会を行う。 2) 学期ごとにディレクター、参加リーダーで振り返りを行う。	C B	1) 月に2回実施。担当社会が必要時に開催した。 2) Ⅲ期のみ新型コロナウイルス感染防止のため実施なし。
体育教室 KPI	1) 月に1度体育教室担当者会を行う。 2) 学期ごとに活動後にディレクター、参加リーダーで振り返りを行う。	D C	1) 11月に行ったが、その後は行っていない。 2) 12月に2期の振り返りを行った。その他は行っていない。
被災地復興 支援事業	1) 学期毎にディレクター、参加するリーダーでミーティングを開催する。	A	ミーティングとして時間をとってはいないが、留意点等の共有は移動の車内で行なった。
サンデー スクール	1) 毎回の活動にて、目標を1つ以上立てて取り組む。 2) 毎回の活動にて、試作、ミーティング、活動の振り返りを1回以上、継続して行う。 3) メンバーへ、サンデースクールの活動の様子を伝えて行く。 ① YMCA ニュースの記事や、チラシのリーダーからのコメント欄に、前回の活動の様子、感想などを載せて伝える。	B A D D	1) 行っている。 2) 行っている。 3) リーダーが多忙から、行えていない場合がある。 ① 2月チラシリーダーからのコメント行っていない。今後行うか検討が必要。

事業計画6 (より深く関わる)			
盛岡YMCAプログラムに参加する子どもたちの家庭とのコミュニケーションを強化する。			
全体 アクションプラン			
1) 欠席者への連絡、参加者へのフォローを強化する。 2) 学童保育においては、送り迎えの際の情報交換の場を大切にする。 3) 学期ごとに保護者との面談の機会を設定する。 4) スタッフ、リーダーのカウンセリング力を高める。			
ぶら いむ・ たい む 本町校	1) 試験的に保護者との連絡ノートを開始する ①隔週金曜日に保護者から提出いただき、職員が目を通し、翌週月曜日に返却する ②必要があれば、電話もしくは直接話を伺う	E E E	1)職員の異動等もあり、そこまで手を回すことができなかった。 ①取り組み自体行っていない。 ②取り組み自体行っていない。
ぶら いむ・ たい む 前潟校	1) 見送りの際に子どもの様子を伝える。 2) 無断欠席2回連続した家庭への連絡を行なう。 3) ぶらいむ便りを月1回作成し配布する。 4) 親子参加型収穫祭を年1回秋に行なう。 ① 同時に収穫できるよう計画を立てて畑作業を進める。	A A E E	職員が必ず行っていた。 無断欠席は無い。 行わなかった。 同時収穫が難しく、行えなかった。
ぶら いむ・ たい む 向中野校	1) 月に一度学童のニュースを発行し、保護者に配布する。 2) 保護者の迎え時に積極的にコミュニケーションを取る。 ① 子どもについて感じたことを、1つ以上保護者に伝える。 ② 引継ぎで気になる事が継続して2回以上続いた案件に関して、保護者に相談する。 3) 保護者との懇親会を企画する。	C C C B D	1) 多忙のため、月2程度のペースで発行する形となった。 2) 意識している。 ① 意識しているが、諸活動手紙を配りつつ、毎回全員に話をするのは物理的に不可能。手段を検討する必要がある。 ② 話をしていない。 3) 企画したが、参加者が集まらず中止。
ぶら いむ・ たい む 盛南校	1) 子どもたちが過ごしている様子を、保護者に目に見える形で伝える。 ① 毎月学童のニュースを発行し保護者に配布する。 ② プログラム中の写真を掲示する。フォトフレームを使用する。 ③ 学童内のプログラムに保護者が観覧できる機会を作る。 2) 保護者の迎え時に積極的にコミュニケーションをとる。 ① 子どもについて感じた事、気づいた事を1つ以上保護者に伝える。 ② 引き継ぎで気になる事が継続して2回以上続いた案件に関して保護者へ相談する。	B C B E A A B	1) 玄関に写真の掲示、フォトフレームを使い、伝えている。 ①作成できていない月があった。 ②作成できない月があった。 ③学童の形態上、平日に行うのが難しいと判断し行わなかった。 2) お迎えの際にコミュニケーションが取れている。 ①ほぼ毎日取れている。 ②気になった点について相談はできている。
生涯学習	1) 活動の様子を見える形にして保護者の方へ報告を行う	E	1)行っていない。

事業	① 学期ごとにお便りを作成し、お便りの中に参加者の声を取り上げる。	E	①お便りの作成まで手を回すことができなかった。
サッカー スクール	1) 2週以上連続した欠席者へ連絡を徹底する。 2) 参加したメンバーでも気になったことがあった際には必ず電話連絡をする。 3) ベストキッズの保護者を対象に、父の会と母の会をそれぞれ年1回開催する。	A A A	行なった。 行なった。 父の会、母の会と分けず、保護者会として1度開催した。
水泳教室	1) 学期ごとに水泳教室のニュースを作成し保護者へ配布する。 2) 連絡なく2回続けて休んだ子の保護者へ電話連絡を行う。 3) 学期ごとに保護者へ電話連絡を行う。	C A A	1期のみ実施。 実施。 実施。
体育教室	1) 学期ごとに体育教室のニュースを作成し保護者へ配布する。 2) 連絡なく2回続けて休んだ子の保護者へ電話連絡を行う。	E A	1) 実施できていない。 2) 連絡なく2回続けて休む子がいなかった。開始時間に連絡なく来ていない子の保護者には、その都度連絡を行っていた。
野外活動	1) 季節キャンプの説明会、報告会を行う。 ① サマー、ウィンタープログラムで説明会2回報告会1回を開催する。 2) 電話がけを行う。 ① 定例野外、季節キャンプが終わるごとに電話掛けを行い、子どもたちの様子や自宅での様子等、保護者と話す機会を作る。 3) 解散時に子どもの様子を保護者へ伝える。 ① ディレクターが出発式と解散式に保護者へ挨拶する。 ② 解散時にグループごとにボランティアリーダーから保護者に子どもの詳しい様子を話す時間を作る。	A A C C B A B	実施した。 実施した。 定例野外のみ実施。 定例野外は実施できたが、季節キャンプでは徹底できなかった。 定例野外では実施。 実施した。 定例野外のみ実施。季節キャンプは徹底できなかった。
サンデー スクール	1) 家庭でもサンデーで行ったことができるようにする。 ① サンデースクールで行った内容(お菓子や、工作の作り方など)を、毎回ラミネートにしてメンバーに配布し、家庭でも挑戦できるようにする。 2) 保護者の方に、サンデースクールでの子どもの様子を伝えて行く。 ① メンバーの子どもが、活動している様子の写真を見てもらえるよう、毎回の活動にて写真販売のお手紙を必ず配布する。 ② 保護者同伴で活動に参加したいという希望があった場合において、積極的に受け入れられるようにする。	A A B A A	1) リーダーが意識して取り組めている。 ① 毎回配布している。 2) リーダーが意識して取り組んでいる。 ① 毎回配布している。 ② 受け入れている。6月に1度あった。

事業計画7(より長く関わる)			
今後、日本のYMCAが進める「子育てと子育て」伴走プロジェクトをスムーズに内容の伴った形で推進できるよう、全国の取り組みに先駆けて盛岡YMCAとしての取り組みを開始する。			
全体 アクションプラン			
1) 盛岡YMCAが育てたい人間像を協議しある程度の指標を共有する。 2) 保護者との面談、情報交換の際に利用するとともに、試験的な取り組みなので保護者からの意見、助言を頂戴しながら進める。 3) 全国YMCAの動向に合わせて柔軟に進めて行く。最終的に1年を通しての取り組みを評価し、次年度の取り組みにつなげる。			
本部事務局	1) 9月から、ぶらいむ・たいむの1校をモデルケースとして伴走プログラムを開始するにあたり、職員を短期の研修に派遣する。	A	時期はずれたが派遣できた。
ぶらいむ・たいむ 前潟校	1) 前潟校OBによるお泊り会への参加7名を目指す。 ① 第1報・第2報として案内を配布する。 ② 文章案内の他、活動前と活動後にOB本人と保護者への電話連絡を行なう。 2) 前潟校OBによるチャリティーランへの参加5名を目指す。 ① 第1報・第2報として案内を配布する。 ② 文章案内の他、活動前と活動後にOB本人と保護者への電話連絡を行なう。 3) 前潟校OBによる国際協力募金活動へ参加3名を目指す。 ① 第1報・第2報として案内を配布する。 ② 文章案内の他、活動前と活動後にOB本人と保護者への電話連絡を行なう。	C A B E A D E A D	4名の参加にとどまった。 OB全員に配布した。 活動後は参加者以外へは行っていない。 テスト期間と重なったため参加者0名。①配布した。 ②全員への連絡は行えていない。 部活動の大会等で0名だった。 全員への配布を行った。 全員への連絡は行えていない。
ぶらいむ・たいむ 向中野校	1) 保護者が抱える悩みや相談を、話しやすい環境をつくる。 ① 年に2回保護者と電話を通じて話す機会をつくる。 2) 向中野校で関わってきた子たちが、気兼ねなく立ち寄れる場となる。	C B B	1) 保護者とコミュニケーションを深め信頼関係を築く必要がある。 ① 1回目は行えた。2回目は数名しか行えなかった。(コロナに対応

	① チャリティーバザーのボランティア参加に向けOB・OGに声をかける。 ② 途中退会の子どもに向中野センターでの活動の案内を適宜送る。(退会の際に、案内の送付をして良いか確認を取る。)	B C	した業務を行ったため、時間の確保ができなかった。)また、スタッフ間で分担して電話かけができなかった。 2) 数値化していないが、現在も卒業生が立ち寄り話をしていく。 ① 声をかけたが、テストや部活で参加できない子がほとんどだった。 ② 行えているときと行えていない時がある。
ぷらいむ・たいむ 盛南校	1) 保護者が抱える悩みや相談事等を話しやすい関係作りに努める。 ① 年に2回保護者と電話を通じて話す機会をつくる。	C D	1) 普段からお迎えの際にコミュニケーションをとれていた。 ①2 回行うことができたが、1度目は期間を決めていなかったため、期間が伸びてしまい、2度目は、段取り、担当を決めて行えなかったため、今年度中に全会員に話す機会を作ることができなかった。

方針III 盛岡 YMCA を良くする。盛岡 YMCA のビジョンを立てる。

盛岡 YMCA の課題を整理、改善するとともに盛岡 YMCA の中期計画を策定し、盛岡 YMCA の今後のすすむべき方向性を定める。

事業計画8 (ビジョンを明確にする)			
盛岡 YMCA の中期計画を定める。盛岡 YMCA が何を目的とし、その実現のために具体的に何をどうしていくかを関わる一人ひとりが共通理解を持って、運動を推進していけるようにする。			
全体 アクションプラン			
1) 盛岡 YMCA に関わる人を対象としたアンケートを実施する。 2) 中期計画の策定を通して会員、役員、リーダー、職員など盛岡 YMCA に関わる人びとと共有する機会を設ける。			
本部事務局	1) 会員を対象に、9月を目標にアンケートを実施する。 2) 9月を目標に盛岡市内、周辺市町村のプログラム調査を実施する。 3) 11月をめどに中期計画を策定する。	A E E	実施できた。 できなかった。 できなかった。

事業計画9 (課題を整理し、制度を整える)			
YMCA 運動を推進する、一人ひとりが健康的に、充実感をもって運動に関われるように働き方改革の推進に取り組む。総務機能を充実させ、事務の簡略化、ICT化、会議の持ち方、研修制度を見直す。			
アクションプラン			
1) 諸規定の整備を進める。 2) 計画的な研修制度の体系を構築する。 3) 効果的な会議、ミーティングの進め方を学び、それぞれのセクションにおいて実践する。 4) それぞれの業務において、PDCA サイクルを有効に活用し、機能させる。			
本部事務局	1) 年内をめどに諸規定の整備を完成させる。 2) 会議の持ち方の研修を行う。 3) PDCA サイクルを活用し、職員の仕事の進め方の向上を図る。マニュアルの作成、日常的な指導を行う。 4) 学童、サッカー、水泳、体育、野外のプログラム別に研修制度の体系を協議し、アウトラインを年内に作成する。	E E E E	できなかった。 できなかった。 できなかった。 できなかった。
ぷらいむ・たいむ 前潟校	1) 事務作業の年間計画を立てる。 ① 「誰が」「いつまでに」を明確にする。 2) 食育に関する前潟センター職員研修会を年2回行う。	E E E	できなかった。 長期で明確にできなかった。 できなかった。
ぷらいむ・たいむ 向中野校	1) スタッフ間の情報共有システムを整える。 ① ホワイトボードを活用し、より目に見える形での共有を図る。 2) 職務分掌を明確にし、進捗状況などの確認を適宜行う。 3) 気になったことを職員が書き残すノートを用意し、活用する。	B B A C	1) 整備した。 ① 活用している。消し忘れなど使い方を整備していく必要あり。 2) 行うことで、忘れることが少なくなった。 3) 職員によって活用していく意識の差がある。まずは、ノートを確認しチェックを入れる習慣をつける必要がある。

ぶらいむ・たいむ盛南校	1) 4月に職務分掌を明確にし、進捗状況などの確認を適宜行う。 2) 気になったことを職員が書き残すノートを用意し、活用する。 3) 事務作業手順を整頓し、明確化することによって作業効率化を図る。	B B C	1) 前半は行えていなかったが、10月から進捗状況表を用いて確認できている。 2) スタッフ職員が気になった点をパート職員が確認する形で活用している。 3) 写真販売の手順については、掲示できているが、他の作業については行えていない。
生涯学習事業	1) 事業部会を月に1度行う ① ハロウィンやクリスマスなどの行事を企画立案する。 ② 向中野公民館とスムーズなやり取りを行えるようにする ③ 連絡先の確認を改めて行う。 ④ 連絡がつかない場合の対応について管理人と確認し、お互いに見える形で持っておく。 3) 事務作業の手順を見える化し、作業の効率を図る。	C B A A D B	1) 月に1度の事業部会ではなく、担当者間で必要に応じ、都度確認報告しあいながら進めた。 ① ハロウィンイベントを行うことができた。クリスマスイベントも行う方向で話を進めていたが、日程の調整がうまくいかず行うことができなかった。 2) 2018年度に比較し、使用料の支払い等スムーズに行うことができた。 ① 連絡先の確認は改めて行った。 ② 対応については、確認したものの、見える形で持っておくことはできなかった。 3) 事務作業自体が多くなく、見える化しなくても、担当者間での作業を円滑に進めることができた。
サッカースクール	1) 事務作業の手順を見える化し、作業の効率を図る。	B	役割分担はしたものの、紙面での共有はしていない。
水泳教室	1) 事務作業の年間計画を作成する。 2) スタッフの水泳指導力、危機管理能力の向上を図る。 ① 年3回スタッフトレーニングを行う。	C A A	作成したがより詳しいものが必要。向上している。実施した。
体育教室	1) 事務作業の年間計画を作成する。 2) スタッフの体育指導力、危機管理能力の向上を図る。 ① 6月に職員を他団体もしくは他YMCAへ研修に出す。 ② 月1回スタッフトレーニングを行う。	D D E D	1) 年度当初に作成できていない。11月に作成となった。 2) 行ったが、計画通りの回数には行えなかった。 ① 実施していない。 ② 11月に行ったが、その後行えていない。
サンデースクール	1) チラシ配布のタイミングを精査し、チラシ作成のタイミングと、メンバーへの周知を低コストかつ、スムーズに行えるようにする。 ① 基本は、各活動でチラシを配布。配布不可能な場合は、DMや野外活動のチラシとともに送付する形とする。 ② 6月活動のチラシ→5月26日に発送する。 ③ 10月活動のチラシ→10月10日にDMと同時に発送する。 ④ 11月活動のチラシ→11月10日にDMと同時に発送する。 ⑤ 2月活動のチラシ→年始の野外活動チラシと一緒にタイミングで発送する。 ⑥ 3月活動のチラシ→3月10日にDMと同時に発送する。 2) 現金の受け渡しや、清算の時期を決め、スムーズに行えるようにする。 ① 活動があった週の次の水曜日までに、必ず全ての伝票とお金を提出・入金する。	B B A A A C C A A	1) 期日までにチラシの準備が間に合っていない時があった。(野外活動チラシ発送のタイミングが事前に把握できていなかったため。) ① 概ね計画通りに配布できた。 ② 発送した。 ③ 発送した。 ④ 発送した。 ⑤ 発送できなかった。野外配布タイミングを憶測でしか把握できていなかったため。 ⑥ コロナの影響のため中止。計画通りには動いていた。 2) 清算は計画通り行えたが、出金は時期を忘れ行えていなかったことがあった。 ① 行った。

事業計画10(組織基盤を強化する)

盛岡YMCAの推進する運動をより地域社会から理解や信頼を獲得するため、認定NPO法人の法人各を取得する。

全体 アクションプラン

1) 認定NPO法人格取得へ向けての計画を作り年度内の取得を目指す。

本部事務局	1) 9月までに、認定NPO法人取得のメリット、デメリットを精査する。 2) 10月中に取得に向けてのスケジュールを作成する。	E E	出来なかった。 出来なかった。
-------	--	--------	--------------------